世界常識で学ぶための授業ノート　'16.8.17 改訂

育鵬社 新編 「歴史」

教科書「育鵬社 新編 新しい日本の歴史」の授業ノートです。昨年の横浜市の教科書採択で，教育長と教育委員が投票し，教育長と教育委員２名が育鵬社，教育委員３名が帝国書院を推して，同数だからと教育長が育鵬社に決定しました。各学校で教員が選ぶのが世界の常識ですが日本はそうなっていません。それゆえ，教員が「教科書を教える」のではなく，一層学習を重ねて「教科書で教える」力をつける必要があると思います。「公民」と同様，横浜教職員の会ホームページ」にも Word で掲載していきます(http://yokokai.web.fc2.com)。質問などへも可能なかぎりお答えしたいと思います。

ebiyk01@yahoo.co.jp あてメールでどうぞ。　元横浜市立中学校社会科教員　神谷幸男

育鵬社歴史教科書は，「新しい歴史教科書を作る会」から分かれた日本教育再生機構の人たちが中心となって作られました。彼らは，「今までの歴史教科書は日本の悪い面を強調する自虐史観に立っている。もっと日本の良い面を教えて子どもたちが日本に誇りを持てるようにすべきだ。」と言います。その意図を無理に実現するため，この教科書には次のような特殊な性格＝ゆがみが盛り込まれたように思われます。

(1)社会の中の支配関係を認めず，民衆の苦しみや過酷な支配に対する民衆の闘いをほとんど書かない。

(2)天皇中心主義で歴史を描き，天皇制を美化する。

(3)近代日本の戦争をやむを得ないものとして肯定し，アジアの解放につながったなどと美化する。

(4)日本人や日本文化を他国より優れているとする主観的な日本中心主義。

(5)大日本帝国憲法を美化し日本国憲法をけなす。などです。

また，執筆者に各時代の歴史学の専門家が少ないせいか，現代の歴史学からすれば相当に遅れた解釈や間違いも見られるように思います。

したがって，「公民教科書」と同様，この教科書にそってそのまま無批判に教えてしまうと，国家の命令には盲従しアジア人を蔑視するような独りよがりの日本人を育成してしまう恐れがあります。大げさと思われるでしょうが，領土問題などでの最近の日本の世論を見るにつけ不安はぬぐえません。未来を生きる中学生たちは，国民としての基礎的な知識とあわせ，国家を超えたグローバル社会に暮らす平等な人間としての連帯感を身につけることが必要ではないでしょうか。

そのため，この教科書の問題の記述には，別の情報や考えを対置するなどの工夫をして生徒たちに正当な批判精神と分析力を育てたいものです。

以下は，私が実際に授業に使うことを想定して作成した授業用サブノートです。私はＢ５で印刷して周囲をカットしノート左ページに貼らせ右ページは自由記述欄の形で使っていました。もとより私の不勉強による限界があるでしょうから，先生方が自由に取捨選択・改良して使っていただけたら幸いです。よろしくお願いします。

※表紙裏～p6：法隆寺五重塔が「最も美しい塔といわれている」など主観的な評価には要注意。
「松林図」は優れた水墨画ですが，安土･桃山時代の文化を表す代表例にふさわしいかな？
※p8[年代の表し方]･･西暦の説明：キリストの生誕とされる年を紀元元年とするのは不正確でしょう。

紀年法

歴史上の時の前後関係を示す年の数え方：ある年を第１年(元年)とし,その翌年を紀元２年とする

(1)キリスト紀元(いわゆる西暦)　･･･現在世界で最も多く使われている

紀元前 紀元前 紀元前 紀元前　紀元

４年｜３年｜２年｜１年｜１年｜２年｜３年｜４年｜････２０１４年

※キリストが生まれたとされた年(6 世紀の頃の研究で)
(現在では紀元前 4～7 年のいずれか説が有力)

紀元前～年(B.C.)　　紀元～年(A.D.･･･Anno Domini)　Anno=年，Domini=主
=Before Christ　　＝　in the year of our lord
ーで示すこともある　　「紀元」は省略することが多い

(2)年号(元号)･･･昭和～年,平成～年など　　※元々は「万能の存在たる」中国皇帝が時間を支配し時期に名をつけたことから

(昭和 64 年)

昭和 61 年｜62 年｜63 年｜平成元年｜２年｜３年｜４年｜５年｜６年･････28年

・　・

天皇　天皇　　・明治時代から天皇一代に一つの元号となる
昭和　裕仁　明仁　平成　　(天皇中心の国づくりのため)
(ヒロヒト)(アキヒト)
死亡　即位　　・江戸時代以前はしばしば変更
(１９８９年)　　･･弘化→嘉永→安政→慶応→

※年号の年を西暦に直すには　(覚えておくととても役立つ)
明治A年＝(１８６７＋A)年，　大正B年＝(１９１１＋B)年
昭和C年＝(１９２５＋C)年，　平成D年＝(１９８８＋D)年

(3)皇紀(コウキ)･･伝説上の「神武天皇」即位の年(B.C.660 年)を元年とする
･･戦前･戦中はさかんに用いられる。※「ゼロ戦=零式艦上攻撃機」(皇紀 2600 年昭和 15 年採用)
中国の讖緯思想による辛酉革命説をもとに 601 年から 1260 年さかのぼらせた建国神話による

世紀

･･年代を１００年ごとに区切ったもの　英語では Century→略してC(12C など)
１年から１００年までは１世紀，２４８年は(　　)世紀,1601 年は(　　)世紀,今年は(　　)世紀,
２０００年は(　　)世紀　←※間違えやすい！　　→いろいろな年をあげて練習しよう

時代区分

・・様々な特色によって社会の歴史を区分したもの
(1)原始→古代→中世→近世→近現代･･･社会のしくみの特徴で時代を分ける
(2)奈良時代→平安時代→鎌倉時代など･･･そのときの政権の場所で分ける

歴史の旅を始めよう ・・東アジア地域では(　　)文明の巨大な影響を受けつつ，日本の(　　)文字や朝鮮半島のハングルなどに見られるように各地域で独自の文化を創り上げてきた。日本列島に居住した人々がどのように暮らし，どのような社会を築いてきたのか，困難に直面してどう行動してきたのかを知ることで，今を理解し将来を見とおす力を身につけていこう。

歴史のモノサシ・・①宇宙と人類の誕生モノサシ・・宇宙誕生は今から約(　　)億年前　　②日本の歴史モノサシ・・日本が国として形を整えていったのは・・４世紀は疑問。７世紀頃が正確。

[歴史人物 Q&A カードをつくろう]・・×　歴史ドラマ的理解から自立するための中学歴史！※小学校で習った人物史の大半が伝説や俗説･物語に過ぎないことを知って行く必要があります

P14,15 の歴史絵巻も小学校感覚。(実在しない神武天皇や伝説の聖徳太子など)

[地域調査に出かけてみよう！]　まず,地域の歴史博物館をたずねてみよう。(県立,市立他)

P16,17 は平安時代に

第１章　原始と古代の日本

第１節　日本のあけぼのと世界の文明

１．日本列島ができたころの人々

[**人類の誕生**]p18,19　　※「ラスコーの洞窟壁画」など紹介したい

☆最初の人類・・約(　　)万年～600 万年前頃※(　　)大陸に(＿＿＿＿)が現れる。

ラミダス猿人や(　　)など。樹上生活から地上におり(＿＿＿＿)で歩行する。

→前足が進化した(　　)で(＿＿＿＿)を作って使い,さまざまな食料を獲得するようになる。

☆約 180 万年前頃,アフリカに(＿＿＿＿)が現れ，ヨーロッパやアジアに広がった。

東南アジアには約 150 万~100 万年前に(　　),中国には約 50 万年前に(　　)。

☆脳の発達←多様な食料，直立によって重い脳を支えられる体型，強力なあごと歯の退化など

※猿人段階は容積が 500cc ほど→原人で約(　　)ほど→現代人は約 1500cc 前後

⇒複雑な(＿＿＿＿)の発達→意志や情報の伝達による集団生活の発展，技術の伝承と発展

(　　)の使用・・調理,照明,暖房,武器,物の加工へ。石を打ち欠いた(＿＿＿＿＿＿)の作成へ。

☆人類が打製石器を用い，狩猟や採集で暮らしていた時代＝(＿＿＿＿＿＿＿＿)

☆約 20 万～10 万年前，(＿＿＿＿＝　　・　　)がアフリカに現れる。

約 7 万～6 万年前頃※，アフリカを出て世界各地に広がり，現在の人類の直接の祖先となる。

※『日本人になった祖先たち』(NHK ﾌﾞｯｸｽ 2007 年，篠田謙一)による

[**日本人の祖先**]p19　　※(日本ではﾏﾝﾓｽ狩りの痕跡は未発見。「小さな集落」→定住でなくキャンプ地。)

☆そのころの氷期には海面が現在より(　　)以上も低く，日本列島は大陸から地続き

→約 3 万年ほど前ころ，ナウマン象，マンモス，オオツノジカなど大型動物を追って新人が渡来した。

→岩陰や洞窟に住み打製石器・棍棒・落とし穴などを用いて協力して獲物をたおす。

※(　　)遺跡で発見の黒曜石の打製石器，野尻湖で一緒に発掘されたﾅｳﾏﾝ象の牙とｵｵﾂﾉｼﾞｶの角

☆(　　)ほど前から温暖化し海面が上昇し，ほぼ現在の日本列島の島々ができる。

→丸木舟などで北方や南方，朝鮮半島などから新たな人々も渡来→混血して私たちの祖先へ。

２．豊かな自然と縄文文化　　※遺跡の密度は東北地方が最も高い。

[**縄文時代の始まり**]p20　　※想像図は川と同一平面→実際は洪水を避けて微高地が多い。

☆(　　)の使用‥約１万５千年前ころ～。→食物の煮炊きや保存に活用する。

＊表面に縄目の文様が多い→(　　)※厚手でもろく文様も様々。深鉢型が基本。

＊この土器が使われた約１万数千年前～紀元前４世紀頃までを(　　)，その頃の文化を(　　)と呼ぶ。

[**日本列島の豊かな自然と暮らし**]p20,21　　p22～25「縄文時代探検」参照

☆この頃の列島の東北地方以南は温帯に属し，南からの暖流,北からの寒流に囲まれ,植生も多様。

(　　)などの温帯の森で，落葉広葉樹の木の実(　　,　　)，イモ(今のなど)，川や海で(　　・　　など)の魚や貝類，森で(　　)などの動物をとらえて食糧にした。※ドングリ類などの植物食が基本。貯蔵穴も多数発見。

※季節に応じた多様な自然食料→本格的な農耕や牧畜がない「自然物採集経済」が続く。

くりやイネ(陸稲･おかぼ)などの栽培があったと思われるが畑の遺構は未発掘。飼い犬は確か。

☆川や海岸近くの微高地や台地に，数戸から数十戸ほどの※住居を建てて村をつくって生活。

※地面を円形や方形に掘り下げ,掘っ立て柱を立て草ぶき(土も)の屋根をかけた(　　)

☆(　　)‥人々が貝殻や骨,食べ物の残りなど捨てた跡→当時の人々の暮らしの様子がわかる

☆(　　)青森県‥約 5 千年前の巨大な集落跡。巨大な竪穴住居，掘立柱建物など。P21 上図：同時期に 500 人ほどが集住したと思われる。遺跡密度も東北地方が最も高い。

＊遠方との交易を物語る遺物‥北海道や長野県の(　　),新潟県の(　　)など発見

☆(　　)‥女性をかたどった人形(ひとがた)。出産と繁栄をなぞらえたか。一部を破損させた物も。

☆原始的な農耕(クリ，クルミ，アワ，ヒエ，陸稲などの栽培)，保存食の工夫，酒づくりなど

※「縄文の豊かさ」‥食料が多様なのは,様々な食料をかき集めていたからで「豊富」ではない。

☆縄文文化が日本文化の基盤？‥南北に長い列島は各地で風土も違い,約1万年の長期間を通して共通の文化が育ったわけではない。その後の稲作文化を伴う大陸からの渡来と混血の影響がより大きい。

３．文明のおこりと中国の古代文明

[**文明のおこり**]p26,27

☆氷期が終って地球が温暖化し,大型動物が減り木の実が増える。･･･約１万数千年前

→＊木の実や魚、貝をとり、スピードと命中度が高い(　　)で小型の動物をとらえて食べる。

＊(　　)の発明→煮炊(にた)きや食べ物の保存に使う　(それ以前にも別の煮方あり)

＊石器の進歩･･･磨いて形をととのえた石器(　　)も使うようになる。

＊土器や磨製石器を使うようになった時代⇒（　　）

☆(　　)の開始＝狩猟の中で動物をよく知る→野生の羊や牛をかいならし、子を産ませてふやすことができるようになる　　※最初の家畜は(　　)と言われる。

☆ (農業＝農耕)の発生 ＊よく実のなる野生の植物を栽培して食料をえること‥一年中暖かで雨が多い地域では発生も早くよく発達したと思われる→世界各地でさまざまな栽培植物が発生

＊農作物の４つのふるさと‥『栽培植物と農耕の起源』(岩波新書　中尾佐助著)　是非参照を

☆**支配者**はどのように発生したのか　（※この教科書は「支配」を認めず，意図的に「指導者」としている）

(1)生産力の発展・・道具の進歩,(　　)や牧畜の発展 ,共同作業 などによる。

⇒食料の生産がふえ、**あまりの生産物を富としてたくわえる**。

(2)村の**指導者**(長老など)の強力な地位

選ばれて村の指導的な仕事を行う　　あまりの生産物など共同財産の管理

↓　　かんがい(用水を引く)工事や戦争の指揮　など

しだいに力を強める　　・私有地(自分の土地)をふやし、財産をたくわえる

↓　　・村の奴隷を自分のものとする(共同財産の横取り)

支配者となって、人々から生産物の一部を(　　)として取り上げる

☆国家はどのように発生したか

(1)村の支配者⇒　自分の地位・財産を子孫に伝えたい,他の支配者をも支配して富をふやしたい

⇒より広い地域や都市を支配　⇒　支配するもの　**国王・貴族**　┐　社会が**階級**

支配されるもの　**平民・奴隷**　┘　に分裂

(2)少数の支配者が多数の民衆を支配するための制度や組織の整備

軍隊・警察・監獄・法律・裁判・身分制度など＝※(＿＿＿＿)のしくみ

※これらは支配のためだけでなく**社会を安定させる公共の役割を果たしている**。

☆**古代文明・・青銅器・鉄器**などの**金属器**や**文字**，さまざまな**社会制度**など，このころ人類がはじめて作り出した社会全体の文化をまとめて**古代文明**とよぶ。

[**世界の古代文明**]p27

・・大河の水をかんがいや交通路に用いて(＿＿＿＿・＿＿＿＿)を発展させやがて大国家に。

＊紀元前(＿＿＿＿＿＿)年ころ～紀元前１５００年ころにおこる　※「四大文明」は東洋の概念

①**メソポタミア文明**・・紀元前３５００年ころから

＊(　　川,　　)川の流域(現在の　　あたり)に発達

＊天文学が発達し月の満ち欠けを元に(　　)を使用。七曜制。時間や角度を示す(　　)

＊(　　)文字を粘土板に刻んで表記。＊(　　)法典

＊日干しレンガの建物、巨大な神殿(ジッグラト)など。

②**エジプト文明**・・紀元前(　　年)ころ～(紀元前 30 年)

＊(　　)川の流域に発達、＊(　　)暦を使う、天文学や数学が発達→測量の技術

＊石を積み重ねた巨大な建造物・・(　　、　　、オベリスク)など

＊象形文字・・(　　神聖文字)が発達　　←ロゼッタストーンで解読

＊王家の谷で発見された青年王(　　)の墓→黄金のマスクなど多くの遺物

③**インダス文明**・・紀元前２６００年ころ～紀元前１８００年ころ(諸説あり。BC2500 ころからとも)

＊(　　)川の中・下流域(現在の　　)に発達。

＊レンガづくりの計画的な都市・・(　　)、ハラッパーなど

大沐浴場、下水道、ダスターシュートなどがある整った町

＊石でできた印章に多くの文字が刻まれる→文字はまだ解読されていない。→謎の文明

＊突然の滅亡の理由も不明(アーリア人侵略説→砂漠化説→インダスの河道変化説など)。

※補足(ギリシャ･ローマはヨーロッパ文明の基盤です)　p27 右下

①ギリシャ文明　　資料集などで補ってください。

＊紀元前 1000 年ころ～　北方からギリシャ人が移動してきて現在のギリシャ各地に多くの都市国家(　　)を建設。それまでの住民は奴隷とされる。

＊ギリシャ人は支配民族となり、労働をどれいにまかせて自由な市民生活をおくる。

・代表的な都市国家　(　　･･現在の首都)･･アゴラ(広場)で集会を開き、成年男子の市民全員が参加して政治をおこなう＝（　　）政治

・軍国主義的な都市国家（　　）･･きびしい教育でも有名

＊東方から攻めてきたペルシャ帝国を撃退し、地中海の貿易で発展した。

＊アレクサンドロス大王による東方遠征(紀元前 330 年頃)・・ペルシャ帝国をほろぼし、インド北西部まで占領して各地にギリシャ文明の影響を残す(**ヘレニズム文明**)

②ローマ帝国　資料集などで補ってください　(先生方へ：カエサル『ガリア戦記』をぜひ！)

＊イタリア半島中部の都市国家→紀元前 3 世紀頃半島を統一→遠征･政略をくり返して地中海を取り巻く大国に(ｶｴｻﾙとｴｼﾞﾌﾟﾄ女王　　の結婚など)→BC１世紀,**ローマ帝国**となる。

＊巨大な建築物・・大浴場、競技場(　　)、水道橋などを残す

大国を支配する法律の整備→「ローマ法」(→ナポレオン法典→近代ヨーロッパ法へ)

[**中国の古代国家**]p27

☆黄河の流域に(　　)世紀ころ，(＿＿＿)という国がおこる。

・国王の墓，宮殿や都の跡などが発掘される。･･･殷墟(いんきょ)

・すぐれた青銅の武器や祭器が多数発見される･･**青銅器文化**※

※銅にスズ(錫)を 2～15%合金したもの。B.C.4000 年頃から使われた。

・(＿＿＿＿＿)のもとになった(＿＿＿＿＿＿)**文字**をきざんだ亀の甲や牛骨

→火であぶり、ひび割れの形で占いを行う･･･占いによる政治

☆殷の後の(　　)紀元前８世紀頃～＊国々が分立し天下統一をめざし争う(　　・　　）時代

＊国々が競い合う→・(　　)の兵器や農具が使われて農業や商業が発達

・治水(洪水をふせぐこと)やかんがい(耕地に水を引くこと)の技術が向上する。

＊国を強め社会を安定させるさまざまな方法を唱える思想が発展(諸子百家)→後世に大きく影響

@(　　)の教え(　　・儒学)･･**仁**による政治､上下の**礼**､親への**孝**､主君への**忠**義など

「　　」･･彼と弟子の言葉や行動が記録されこの教えの基本が示されている。

☆(＿＿＿)の(※＿＿＿＿＿)が３世紀(　　年)に中国を統一 ※名は｢政｣。初めて｢皇帝｣を名乗る

＊全国を郡と県に分け、都から役人を派遣して治める(中央集権)。｢焚書坑儒ふんしょこうじゅ｣=自分の方針にあわない書物を焼き,儒者 460 人あまりを生き埋めにして殺す(前 213～212 年)

＊(＿＿＿＿＿＿)の建設･･･北方の遊牧民族の侵入を防ぐため,全国から農民を動員して建設。

＊度量衡(ものさし，ます，はかり)と貨幣(おかね)の統一⇒商工業の発展

＊秦がほろびる(B.C.　　)年･･急激な改革，きびしい政治，重い負担⇒農民反乱によって滅ぶ。

＊始皇帝の墓(始皇帝陵)･･西安郊外,未発掘。周囲の地下から約 7000 体の等身大の(　　)

☆(　　)の建国(　　)年・・農民出身の劉邦(りゅうほう)が,名門の項羽(こうう)とともに秦を倒し,後に項羽を倒して建国。都は長安。一時滅びるが前漢,後漢あわせ約４００年間も続く。

＊領土の拡大・・・７代皇帝(**武帝**), 西は遊牧民族を攻めて中央アジアまで, 東は朝鮮西北部を征服して楽浪郡などを置いて支配。南はベトナム北部まで支配を広げる。

→「中華思想」が育つ・・「中国」は世界の中心で華(花)咲く国という考え。まわりはみんな野蛮人と考える。

☆西の**ローマ帝国**との交通路の発展・・・いくつかのオアシス都市を結んでローマ帝国に至る道→中国の絹・絹織物がローマへ・・・「　　」(**シルクロード**)　※複数の道の総称

→西方のアラビア馬,ぶどう,クローバー,くるみ、インドの(　　)などが中国へ

「胡瓜」「胡麻」「胡椒」「胡桃」など：読み方は？・・・「胡」は西方の異民族のこと

☆産業や文化の発展・・　@青銅器,陶器, 漆器などのすぐれた工芸品がつくられる。

@(　　)の発明・・２世紀,蔡倫(さいりん)の発明と言うが実際はそれ以前

@儒教による政治・・上下の秩序(礼)が支配に好都合

→儒教を学び身につけた者だけを役人に採用する。

４．稲作・弥生文化と邪馬台国

[**弥生文化の成り立ち**]p28

☆縄文時代の稲作・・遅くとも縄文時代末期までに大陸や南西諸島から伝来し粗放な稲作があった

※縄文前期(約 6000 年前)の地層から稲のﾌﾟﾗﾝﾄｵﾊﾟｰﾙ(花粉化石)が見つかるなど

☆(　　)**稲作**・・紀元前 4 世紀頃までに。大陸や朝鮮半島から(　　)に伝来。

※朝鮮半島南部からが有力(様々な伝来ルートあり)。※時期は BC1000～BC900 年頃という説も唱えられ論争になっている。　　→しだいに東北地方まで広がる。関東などは遅く伝わり方に地域差あり。

☆水田中心の村・・・平野や川辺の低地に水田をつくり、周辺の小高い土地にむらをつくる。

＊低湿地に水田をつくる。(平均 20 ㎡ほどの小さく形の不ぞろいの水田が多い)

＊すき(鋤)やくわ(鍬)などの木製農具を使ってジャポニカ型の稲を栽培。田下駄, 矢板なども

＊収穫は(　　)や後には鉄鎌で穂先を刈り取る(品種の不統一で実る時期がずれるため)

＊収穫した稲の穂をたくわえる(　　)・・風通しとネズミよけの工夫(　　)

☆金属器(　　や　　)の使用・・・中国や朝鮮からの渡来人が伝える。

＊銅剣、銅矛、銅鏡、銅鐸→実用品から宝物へ。＊鉄器は武器や工具の実用品。

☆(　　)**土器**・・・縄文土器より高温で焼かれうすくて固い。表面の文様は全くないか少ない。東京都文京区弥生町の東京大学構内で発見されその名が付く。その後各地で発掘。

☆(　　)**時代**・・・稲作が行われ, 弥生土器と金属器が使われた(　　)**文化**の時代

(前 4,5 世紀？～　　世紀ごろ)・・現在,この開始時期が学説的にも確定できない状況。

※国立歴史民俗博物館の研究チームは、九州北部の弥生土器に付着した炭化物の炭素 14 年代測定(AMS 方式)による検討から弥生時代の開始期を BC1000～BC900 年頃と発表。'03.7.25

☆稲作による社会の変化・・食料増産よる人口, ムラの増加, ムラどうしの交流発展

＊水,土地,収穫物などをめぐる**戦争**の発生→周囲に壕や柵を持つムラ,武器の発展,傷ついた遺骨

＊神殿のような巨大建築, 多くの住居, 倉庫群など→宗教的指導者, 食料のたくわえなど示す

＊農作業や戦争，祭りなどを指揮する指導者がムラの支配者となる。

☆農耕や交易に有利なムラが発展→各地の有力なムラが周囲を従えて小さな(＿＿＿＿)となり，その支配者は王や豪族となって，高貴な血筋として代々その地位を引き継ぐようになる。

<歴史ビュー>：吉野ヶ里遺跡 ・・九州佐賀県。弥生時代の代表的遺跡とされる。巨大な環濠(外濠と内濠)で囲まれ,木柵や土塁,物見櫓など外敵に備える施設あり。2000 個以上のかめ棺も発見。

[弥生時代の国々]p29

☆当時先進国だった中国の歴史書→周囲の国々のようすも調べて記録を残した。

＊(　　)の歴史書(『漢書』地理志)・・紀元前後のころ「倭」(当時の日本)は 100 余りの国が分立し，中国(漢)に使いを送る国もあった。

＊『後漢書』倭伝・・１世紀半ば※に漢の皇帝に使いを送り(　　)※を授かった小国の王あり。

※57 年。江戸時代に発見の「**漢委奴国王**」(かんのわのなのこくおう or かんのいとこくおう)の金印とされる。

朝貢：皇帝に貢ぎ物をささげ挨拶すること。皇帝は見返りに地位を承認(冊封)し土産物を与える。

☆3 世紀の中国・・・漢が滅んで(　　・　　・　　)が対立する三国時代へ。

☆『**魏志倭人伝**』(「三国志魏書東夷伝倭人の条」)に見る３世紀の日本

＊女王「＿＿＿＿＿」が治める「＿＿＿＿＿＿＿＿」を中心に３０ほどの国がある。

＊女王は神に仕え,まじないによって人々を従わせ国を治める。宮殿に住み,召使いは 1000 人。

＊女王は(　　)に使いを送り、「親魏倭王」の称号を授かり金印と銅鏡１００枚などをもらう。

＊女王が死ぬと直径が 100 歩あまりの大きな墓が作られ 100 人ほどの奴隷も埋められた

＊女王の死後,男王が跡を継いだが国が治まらず、卑弥呼の宗女壹與(いよ or とよ)を王に立てたら国が治まった。

＊貧富の差、身分の差(大人と下戸など)があり、奴隷(生口)もいた。

☆邪馬台国はどこか　※(　　)説と近畿説(大和説)が二大学説,ほかに多数の説あり。

「倭人は帯方の東南大海の中にあり,山島によりて国邑(こくゆう)をなす。もと百余国。漢の時朝見する者あり,今,使訳通ずるところ三十国。郡より倭に至るには,海岸にしたがって水行し,韓国をへて,あるいは南し,あるいは東し・・・・南,邪馬壹國に至る,女王の都する所,・・」

※邪馬台国への経路記述が不明確なため所在地が確定できない。「親魏倭王」印が見つかれば・・

※大和説の復権・・近年奈良県で発掘された古墳の年代が卑弥呼の時代に近いこと,纒向遺跡(まきむくいせき)の遺物などから、奈良盆地南部だとする説が再び有力に。箸墓(はしはか)=卑弥呼の墓か。

５．古墳の広まりとヤマト政権※

※まだ「大和朝廷」の実態などないころ範囲も大和国にとどまらない

[古墳文化の広がり]p30,31

空白の４世紀・・中国で戦乱が続き倭からの使者も行かなかったためか,中国に倭の記録がない。

☆(＿＿＿＿)・・３世紀中ごろから６世紀末頃まで各地につくられた小山のような大きな墓

この時期を(＿＿＿＿＿＿)，この頃の文化を(＿＿＿＿＿＿)という。

＊弥生時代後半の各種の首長墓→大和地方(奈良県)中心に大型の(＿＿＿＿＿＿＿＿)→全国に分布

＊古墳に葬られたのは各地の(　　)・・大きな経済力や武力を持ち地域を支配した一族。

＊表面に石を敷き詰め,周囲や頂上に円筒型や家・馬・人などの(＿＿＿＿)→当時の服装や生活を示す。

＊内部の石室に納められたもの＝副葬品(死者に副(そ)えて葬られた品々)
はじめは鏡・まが玉・剣などの祭りの道具、後には武具・馬具・鉄製農具などの実用品
※「三角縁神獣鏡(ｻﾝｶｸﾞﾁｼﾝｼﾞｭｳｷｮｳ)」・・中国から親魏倭王に贈られた鏡という説があり今も論争中。

[**ヤマト政権の始まり**]p30,31

☆３世紀中ごろに大和(奈良県)地方に大きな政治勢力が成立。・・箸墓古墳(全長 280mの巨大前方後円墳)
５世紀の巨大古墳・・大阪府堺市の(＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿=伝仁徳天皇陵)や誉田山古墳(こんだやまこふん=伝応神天皇陵), 奈良県の見瀬丸山古墳, 渋谷向山古墳など　　※「天皇」の表記は７世紀末から
→近畿地方の有力な豪族たちが王を立て, (＿＿＿＿＿)※となって巨大古墳を築造した。

☆近畿地方の河内(かわち)や大和地方を基盤としてつくられた大王の政権＝**ヤマト政権(王権)**※
※必ずしも大和地方でなく,「朝廷」の実態もなかったなどのため。「ヤマト国家」とも表記する。

☆政権の支配の広がりに応じて全国各地に前方後円墳などが広がる。P30 上図
＊**稲荷山古墳(埼玉県)から出土した鉄剣**・・「辛亥」「ワカタケル大王」などの文字→471 年ころ, 大王雄略などヤマト国家の勢力が関東にも及んでいたことがうかがえる資料。
＊江田船山古墳(熊本県)から出土した鉄刀の銘・・「ワカタケル大王」と読める文字あり。

☆ヤマト国家の社会の仕組み・・(＿＿＿＿＿＿＿＿＿)
＊豪族が, 同じ血縁者を中心に(＿＿＿＿)という集団をつくり, 特定の地域にまとまって居住。
＊政権は中央の有力な豪族に,政権内の地位に応じて臣(おみ)・連(むらじ)などの(＿＿＿＿)を与える。
＊地方の有力な豪族は(＿＿＿＿＿=くにのみやつこ)に任命されて地方をおさめた。
※大王も有力な氏だったが地位が固定してからは氏の名を隠した。天皇家の氏も不明。・・日本史の謎

歴史ビュー：世界最大の墓？　大仙古墳(伝・仁徳天皇陵)　　(大山古墳ともいう)
＊全長 486m, 高さ 35m, 総面積約 46 万㎡（体積では 143 万 3960 ㎥の誉田山古墳が最大）
建設会社大林組の仮の想定では 2000 人を動員して 15 年 8 ヶ月ほどかかったとする。
※始皇帝陵は,東西 485m,南北 515m の底辺と 55m の高さをもつ方形墳丘で,築造には 38 年の歳月が費やされ,70 万人の職人や服役者が動員されたという。兵馬俑坑など含めるとさらに巨大。BC247 年～築造
＊「仁徳天皇陵？」・・古事記・日本書紀では仁徳・反正・履中天皇の順で即位。考古学上の百舌(もず)古墳群の築造年代は履中・仁徳・反正。大王の墓ではあるが特定の天皇と結びつけるのは困難。
※「善政に感謝して人々が完成に尽力した」?=この伝説は, 個人の自立が弱い原始的社会ほど首長に対する精神的依存や尊崇が強いことを示す。近年の研究では, ｴｼﾞﾌﾟﾄのﾋﾟﾗﾐｯﾄﾞも奴隷が鞭打たれて造らされたのではない,とされる。現代の独裁国家や宗教団体での個人崇拝にも通ずる面がある。

[このころ世界は①]　ローマ帝国と日本の古墳時代 p32,33　ノート No５参照

※ローマ帝国成立期と漢帝国の比較は他の教科書も多いが, この比較は育鵬社だけ。カエサルやクレオパトラの時代, 日本は弥生時代の原始社会だった事実を知った方が良い。
＊多神教だったローマの人々・・当時の日本人も同じ？・・日本人の信仰は客観的資料が不足で不明
＊ローマ帝国と日本を結ぶシルクロード？・・中国とローマを結ぶ交通路。日本へは中国から流入。
＊「古墳は語る」・・大仙古墳の築造技術は偉大だが, 時代の違いを無視して比較するのは無意味
大仙古墳築造は５世紀。クフ王のピラミッドは前 27 世紀で 3000 年も前, 始皇帝陵は紀元前３世紀で 700 年前, 何でも日本のものが優れていると言いたがる精神構造はどんなものか。

６．ヤマト政権と東アジア

[**中国と朝鮮**]p34,35

☆４世紀末の朝鮮半島・・北部に(＿＿＿＿＿＿),南部の東に(＿＿＿＿＿),西に(＿＿＿＿＿)があって争う。

＊南端に小国が分立する(　　・　　)があった。「任那」はその一部か？(p34 地図ではあまりに過大)

＊高句麗との闘い・・「　　(好太王)」碑文→391 年渡海して百済・新羅を従えた倭と闘う

＊倭の勢力は(　　)を求めて半島南部と交流し,百済・新羅と関係が深かった。

※倭は半島南部の加羅・伽耶(金官国)と関係が深く，倭人も派遣されていた。

☆５世紀の倭・・ヤマト政権の勢力が九州から東北地方南部に及ぶ。(稲荷山鉄剣,江田船山鉄刀銘文)

＊倭の５人の大王が中国南朝の皇帝に朝貢し，倭と朝鮮南部の支配権を認めてもらおうとする。

「倭王武の上表文」p35 上・・ﾔﾏﾄ政権の統一戦争や朝鮮半島進出を伺わせる。武は大王雄略か。

☆６世紀の朝鮮半島・・新羅(ｼﾙﾗ・しらぎ)が勢力を拡大させ,百済(ﾍﾟｸﾁｪ・くだら)や加羅・伽耶を圧迫する。

→半島南部での倭の影響力も衰える。

[**渡来人※の伝えたもの**]p35　※「帰化人」を訂正。

☆中国・朝鮮から多くの人々が戦乱を避けて移住して来た＝(＿＿＿＿)人※

※「帰化」には「遅れた国の人が先進国の優れた王の政治に憧れてやって来る」という意味があり実態に合わない。

☆渡来人のすぐれた知識・技術の受け容れ（政権が技術者集団に組織し，各地に居住させる）

＊鉄製の農具や武器，(　　)で焼く薄くて堅い灰色の土器(　　),

機織り，灌漑用の(　　)や用水を造る土木技術，仏像制作，文字(　　)や儒教など。

→漢字や新技術を使って政権に仕え,文化や生産の発展に大きく貢献した。漢文で外交文書の作成,

会計の記録なども渡来人が行う。当時の日本語を漢字で表記することも始まっていく。

最初に漢字を伝えたという百済の学者(　　)。日本最古の仏像(　　)。

☆(＿＿＿)の伝来・・6 世紀前半,百済王が仏像や経典を贈って来る＝新羅との戦いで倭の支援を求める。

７．世界の宗教と日本

[**人間と宗教**]p36

☆宗教のおこり・・人間の力をはるかに超えた自然の猛威とその豊かな恵み→自然を恐れ敬う心,

社会の不合理と人間関係によるなやみ・苦しみ→不安を取り除き生きる糧を求める心

→世界各地にさまざまな(＿＿＿)が発生し，現在も人々に大きな影響を与えている。

＊信者に「救いと安らぎ」を与えるが，宗教の違いが対立を呼び，戦争も引き起こしてきた。

☆唯一絶対の神を信仰する①(＿＿＿＿＿)。　多くの神々を信じ敬う②(＿＿＿＿＿)

①ユダヤ教。キリスト教,イスラム教など，②日本の神道,中国の道教,インドのヒンドゥー教など

☆特定の民族だけの③民族宗教。　多数の国々に広がっている④(　　)。

③神道，道教，ヒンドゥー教，シーク教，ユダヤ教など，　④はこれから検討する宗教。

[**アジアでおこった仏教**]p36　※大きく中国経由の大乗仏教と南アジアの上座部仏教に別れる

☆紀元前５世紀頃，インドの(　　※)が開く。※釈迦牟尼,本名はゴータマ・シッダールタ。

＊心の迷いを取り去ることでこの世の苦しみから逃れられると説く。→アジア各地に広まる。

＊日本には中国から伝わり，日本的に変容して葬儀などを中心に生活に深く根付いている。

[ヨーロッパに広がったキリスト教]p37

☆1世紀に，西アジアのパレスティナ(現在のイスラエルあたり)で活動した(＿＿＿＿＿)が説いた教え。

＊神の愛を説き，神の前では誰もが平等であり，神を信じる者はすべて救われるとする。

→迫害を受けながらもローマ帝国内に広がり，4世紀には「国教」となってﾖｰﾛｯﾊﾟ全土に広がる。

＊16世紀にローマカトリック教会(旧教)を批判するプロテスタント(新教)が生まれ対立する。

☆宣教師によるアジアや新大陸への布教などで広まり，約(　　)億人,世界最大の信者数となる。

「　　」・・世界で最も読まれている書物と言われる。イエス以前の「旧約」と以後の「新約」。

☆日本には戦国時代に伝来。その後禁止され，江戸時代には徹底的な取り締まりの対象となった。

[西アジアで生まれたイスラム教]p37　　※最後で最高の預言者とする。ﾓｰｾﾞやｲｴｽも預言者と認める。

☆7世紀初めアラビア半島で(＿＿＿＿＿＿＿＿＿※)が始める→西ｱｼﾞｱ・東南ｱｼﾞｱ・中央ｱｼﾞｱ・ｱﾌﾘｶへ

絶対神(　　)への信仰(=イスラーム),神がムハンマドを通じて下した聖典「　　」に従う生活。

→聖地(　　)に向けた1日5回の祈り，ｲｽﾗﾑ暦9月(　　)1ヶ月の昼間の断食など。

{コラム：日本人の宗教観 }p38　　※島田裕巳『神も仏も大好きな日本人』ちくま新書など参照

●わが国固有の民族宗教：「神道」(しんとう)の特色・・自然の霊的な力を信仰する(　　)の一種。

①自然をさまざまな神々(「　　」)として恐れ敬い，信仰する。

→豊作を祈り，感謝する祭り，天候の回復を祈る祭りなどを行う。

②祖先の霊をまつる(　　)。仏教と融合して「お盆」「お彼岸」などの宗教行事へ。

※一神教が支配的にならない時代の世界各地でも同じような素朴な信仰が行われた。

③皇室祭祀への統一・・明治時代に近代天皇制の基礎として整備（江戸時代の皇室は真言宗・京都泉涌寺）皇室の祖先神である伊勢神宮の祭神(天照大神)を頂点とする神社体系がつくられ，仏教を分離(廃仏毀釈)して国民に教え込む。「二礼二拍手一拝」の拝礼も明治以降の産物。それ以前はただ「合掌」していた。

④「国家神道」・・国のための戦死者は「靖国神社」に祀られ，戦争中は，神社への参拝が国民に強制される。

※中世以降，仏教では霊的な力で願いの実現をはかる密教が流行し，江戸時代まで神社と寺院が一緒にあるのが普通で,人々はどちらにも祈りをささげて「現世利益」を願った（日光東照宮と輪王寺・二荒山神社）

●外来文化を取り入れていく寛容さ？

①仏教やキリスト教の伝来・・それまでの宗教や政治権力との対立・抗争があった。

＊仏教受け入れをめぐる蘇我氏と物部氏の対立，キリスト教禁圧と天草・島原の乱　など。

②宗教で団結した一揆の強さ・・「一向一揆」「キリシタン」＝信仰を守る為には死も恐れない

→江戸時代の徹底した宗教統制・・「寺請制度」=特定の寺に所属させ死後まで管理する(葬儀)

各人に信仰を選ぶ自由がなく,宗派にも信者を獲得する努力の必要がない→信仰心の低下？

③さまざまな宗教の行事に「親しむ」現代日本人　・・「一神教」の世界ではあり得ない！

＊誕生から結婚まで神社で祝い，葬式と先祖供養はお寺でやってもらう・・二重の信仰が基盤

＊クリスマス→初もうで→お彼岸，一応仏教徒なのにキリスト教会で結婚式。

苦しいときの神頼み，「合格祈願絵馬」，各種「うらない」，＝「無信心・無信仰」か？

むしろこのスタイルが多くの日本人の「信仰」とも言える。(無神論と神頼みが並立する)

※一方で，他人の信仰心に無頓着で宗教的行為を強制したりするマイナスも目立つ。↓

(教室正面に「合格祈願の御札」，野球チームで神社に必勝祈願 ，会社の神棚に全員で祈願。)

{歴史ズームイン：歴史を解明する考古学} p39

☆考古学：遺跡や遺物を発掘して研究し，文字記録がない時代などの歴史を明らかにする学問。

①地層から探る(古い物ほど下層)，[7万年の時を明かす水月湖の年縞]=国際標準へ‥気候や動植物の変化，火山・地震活動,水害など多くの情報が得られる歴史のモノサシ。(福井県HPにハンドブック他)

②炭素から探る(放射性の炭素14の変化の程度を測定)

③発掘に使われる科学技術(X線,CTｽｷｬﾝ,ﾌｧｲﾊﾞｰｽｺｰﾌﾟなどを活用),④木の年代から探る(気候の違いによ

④年輪の幅の変化を元に年代を測定→法隆寺五重塔の心柱は594年伐採と推定)

第２節　「日本」の国の成り立ち

８「聖徳太子」の国づくり　　**※小学校で学んだ「聖徳太子の活躍」話は,ほとんど後世の伝説。**

[**「聖徳太子」の登場**]p40　　※「天皇」「皇子」も後世の呼び名

☆隋が中国を統一し(　　年),高句麗に遠征→百済･新羅と共に倭国にも権力集中の必要高まる

☆倭国内の対立‥507年北陸出身の継体大王が即位し20年後やっと大和に入る。九州で反乱も。

＊急速に勢力を伸ばし仏教受け入れを求める(　　)氏がそれに反対する物部氏と争って滅ぼす。

＊蘇我馬子が崇峻大王を殺害し，対立をおさめるため女性(自分の姪)の(　　)大王をたてる。

＊馬子の甥(用明大王)と姪の子である(　　**うまやとのおうじ**※)が推古大王を補佐する。

※「聖徳太子」は751年に淡海三船が「懐風藻」で初めてたてまつった後世の呼び名。

☆政治の改革‥大臣蘇我馬子と推古大王，厩戸王子の３者の共同によると見られる※。

※馬子は572年~627年まで大臣(おおおみ)を勤めた実力者。その親族でずっと年少の厩戸王子が政治を主導できたかは疑問。近年推古の政治力を評価する見解，厩戸の役割に否定的な見解が強まっている。日本書紀は滅ぼされた蘇我氏の業績を厩戸に集約した可能性がある。　(P41右の系図参照)

①「　　」‥出身氏族と関わりなく個人に与える官位のしくみ‥後の律令制の四位以下の官位のみで,三位までの上位は与える側の蘇我氏などが占めていた。紫は大臣の冠でP41の冠色配列も疑問とされ,低い身分から取り立てられた例もごくわずかだとわかってきた。 (『日本衣服史』増田美子 参照)

②(　　)604年‥大王の命令に従うことなど役人の心構えをまとめたもの※。

※「国司」など後世の用語があり,この時代の原文を後に修正したか，日本書紀の作成時に儒教･仏教･道教など外来思想をもとに作られたかなどの論争がある。「和を重んじる考えが日本の伝統に大きな影響を与えた」などとするのはその後歴史を見る限り,とても無理な解釈。

[**「聖徳太子」の外交**]p41　　※「隋書」では倭王「多利思比孤」(誰？)の外交

☆遣隋使‥第1回600年‥倭の政治のあり方が「道理なし」と批判される。(「隋書」に記録)

第2回(　　)年 ‥使いの(　　)が倭王「多利思比孤」の手紙を皇帝煬帝に献ずる

→東夷の王が「天子」を名乗ったため煬帝は激怒→高句麗との対立のため自制し,翌年妹子に下級の使者を付けて帰国させる。※煬帝の返書は妹子が「紛失」したことになっている。 ※倭国は朝貢しながら臣下にならない意志を示し,隋もそれを認めたが,危険な外交でもあった。 ※「日本書紀」は608年の遣隋使で推古大王が「天皇」を名乗ったとするが,中国側の「隋書」に裏付ける史料がなく,1，2回の遣隋使も男性の「倭王」と認識している。「天皇」の使用は天武からが通説。 (歴史ビュー‥天皇と皇帝　はかなり主観的)

☆遣隋使に従い多くの(　　)や留学僧が参加→中国(隋・唐)の制度や文化の吸収。

→帰国して，ヤマト政権の国づくりに貴重な知識を伝える。

☆6 世紀末から 7 世紀はじめ‥政治の中心が奈良県南部の飛鳥地方⇒(　　)時代と呼ぶ。

[**隋の滅亡と唐の繁栄**]p41

☆隋の滅亡(618 年)‥高句麗遠征の失敗,大運河・大宮殿の建設などで民衆に大きな負担→農民反乱

☆(　　)‥隋を倒して建国(　　年)。東西に遠征して大帝国を築き,法制度(　　)を整備する。

⇒東アジア各国に巨大な影響。都(　　)は人口 100 万人を超える国際都市に発展。

９　「大化の改新」と激動の東アジア

[**「大化の改新」**]p42　　※武力を用いて政府をのっとること

☆7 世紀の東アジア‥＊朝鮮半島の高句麗・新羅・百済の争いに唐が介入→倭国にも危機感

＊倭国では，蘇我馬子の子蝦夷と孫(　　)が権力を握り,山背大兄王(厩戸の子)一族を滅ぼす。

☆蘇我氏本家を滅ぼす※クーデター (　　)年‥(　　)や中臣(藤原)鎌足が中心となり,宮中で入鹿を殺し,屋敷を攻めて蝦夷を自殺させる。→孝徳大王が即位(孝徳中心説有り)。

☆政治改革の開始‥＊**年号**「　　※」を制定したとする(※木簡などに実際に使われた証拠はない)。

＊(　　)の原則‥皇族や豪族が支配する土地と人民を国家(大王)のものとする※。

※646 年正月の「改新の詔(みことのり)」で宣言。他にも「郡」の制度など。→大宝律令以前の木簡ではすべて「郡」ではなく「評」だと判明し，「詔」は「日本書紀」が改編か創作したとされる。

⇒645 年に「　　」という大改革があったのではなく約半世紀にわたる改革の始まり。

※645 年は蘇我氏本家を倒したクーデター＝乙巳の変(いっしのへん)があった年。 (×大化の改新)

[**白村江の戦いとその影響**]p42,43　　※防人‥東国から九州防衛に動員された兵士。食料・武器は自前。

☆唐・新羅の連合軍が百済を滅ぼす(　　年)→倭国は百済再興をめざして救援軍を派遣(662 年)

→倭国軍は(　　)663 年で大敗し，朝鮮半島から撤退。(豪族の寄せ集めの倭軍の弱さ)

→唐・新羅連合軍,高句麗を滅ぼす(　　年)→(　　)が唐を追いだし半島を統一(676 年)。

☆唐・新羅襲来への備え‥九州大宰府※を後方に下げ,山城や(　　)を築いて(　　※)を配置。

・都を近江の大津の宮に移し，中大兄が(　　)大王として即位。　※筑紫大宰があった。

・全国の戸籍作成など，中央集権国家建設に乗り出す。←唐の組織力の強さが衝撃を与えた。

[**壬申の乱と日本の国号の成立**]p43

☆天智大王の後継争い→(　　年)，子の大友王子を弟の大海人(おおあま)王子が倒す(　　)。

→(　　)として即位し**天皇**※中心の国家建設を本格的に行う。※「天皇」号木簡初出。

(中国皇帝が道教最高神の「天皇」を名乗りだしたのを天武が聞き及んで自称したか。)

→中国の律令制度にならう法律の作成(後の飛鳥浄御原令)，国定の歴史書の編纂へ。

☆皇后(　　)が改革を継続‥本格的な都城(　　)を建設。新たな戸籍完成など。

☆国号「　　」の成立‥702 年の遣唐使が中国に伝えて記録される。(「旧唐書」東夷伝日本条)

１０　飛鳥文化・白鳳文化と遣唐使

[**飛鳥文化**]p44　　※法隆寺は 670 年に「一屋も余さず焼失」(日本書紀)→仏像などに疑問も出されている。

☆6 世紀末～7 世紀はじめころ(飛鳥時代)の文化‥蘇我氏や厩戸王子が保護し栄えた仏教文化。

＊蘇我氏の氏寺：(　　)‥飛鳥大仏(釈迦如来像)が現存。　※1982 年発掘の山田寺回廊が最古！

＊厩戸王子が建立607年：(　　)・・現在の寺は670年以降に再建(それでも世界最古の木造建築?)

・左右に五重塔と金堂が並び回廊が囲む独特の配置。止利仏師作の(　　)。

長身の木像(　　)，扉・台座に巧みな絵画のある容器(　　)など。

＊その他・・中宮寺や広隆寺の片膝を組み右手薬指でほほをさし思案する(　　)。

※法隆寺のある斑鳩は都の飛鳥から20kmほど。605年から斑鳩の宮にいた厩戸王子の政務への参加にも疑問符が。

[白鳳文化]p44,45　　※式年遷宮は何度も中断し，神社の構造も変化した

☆7世紀後半～8世紀初頭(天武・持統天皇時代)の文化・・(※　　)などの神社・儀式の整備と仏教による国家の安定がはかられ官立寺院(　　など)建設が並行して行われた。

＊建築：(　　)，彫刻：薬師寺金堂(　　),興福寺仏頭(山田寺仏頭),

絵画：(　　)・・インド,中央アジア,中国の影響もうかがえる。1949年火災で焼失。

＊高松塚古墳・・奈良県明日香村,直径18m高さ5mの円墳。石槨内に星辰・日月・四神・人物群像の壁画が描かれ，高句麗系の画工が描いたと思われる。天武の皇子の一人の墓か。

[遣唐使の役割]p45

☆唐の知識・文化をもとめる中国への使い＝(＿＿＿＿＿＿) →日本文化の発展に大きく貢献

＊普通４隻に数百人(使者,　　，留学僧　他)が分乗。

＊(　　)年の第１回から894年の廃止まで十数回(計画は20回)。難破・漂流も多い。

＊中国に渡って唐の高官になり、帰国に失敗して唐で死んだ人・・・(　　)

「天の原ふりさけ見れば春日なる三笠の山に出し月かも」

＊日本渡航に５回も失敗し失明しながらついに来日して戒律を伝え，唐招提寺を開いた僧・・(　　)

☆朝鮮の(　　)や、中国東北部の(　　)とはさかんに交流していた。

１１　大宝律令と平城京

[大宝律令の制定]p46

☆唐の制度をもとにわが国の法や制度をつくる努力が実を結ぶ

＊大宝律令完成(　　)年・・(　　)=刑罰と(　　)=政治のしくみを定める

→天皇を頂点とする(＿＿＿＿＿＿)・・天皇と貴族(豪族が高い位についたもの)による政治

☆中央政治のし＜み　　P47上の図参照

(　　)官(　　)省＝今の内閣・・貴族が位※1に応じて役職に任命され給与※2を受けて仕事する

※1(位)・・30段階、有力貴族は五位以上。　※2(給与)・・田（位田，職田）や布製品

[奈良の都]p46,47　　☆唐の都（　　）にならった新都を奈良に建設→710年（＿＿＿＿）。

奈良時代…(　　年～　　年)・・奈良に都が置かれた期間および長岡京の10年

☆平城京　＊東西約6km，南北約5km(資料によって違いあり)、＊碁盤の目のような東西南北の道路

＊南北の中央に幅74mの(　　)・・北端に平城宮・南端に羅城門がある

＊平城宮・・・天皇の住む内裏(だいり)や役所の建物が集中している　(都を取り巻く羅城はない)

＊京内・・・貴族の大邸宅，唐風の寺院（朱の柱，白壁ガ目立つ）(民衆は掘立柱の家)

＊東西の市…地方から運ばれた産物や貴族に与えられた布製品などが交換された

＊(＿＿＿＿＿)・・708年に発行されだ貨幣　※富本銭1999年に発掘された最古の貨幣

⇒畿内以外では広まらず、地方では米や布などが貨幣の代わりをする

※商品交換の発達レベル・・①物々交換，②物品貨幣，③金属貨幣，④紙幣，⑤カードなど

当時の日本ではまだ商品交換の機会が少なく、②の物品貨幣で十分だった。

☆地方の行政…＊「五畿七道」「畿」‥都を囲む千里(周代の里=約405m)四方の天子の直轄地→都の周辺

五畿…・都を中心とした畿内五国（大和・山城・摂津・河内・和泉）

七道…（　　道，　　道，　　道，　　道，　　道，　　道，　　道）

＊国(くに)‥国府が置かれ、都から貴族が（　　）としてやって来る(任期4年)。

＊郡(こおり)‥以前の国造など地方豪族が（　　）に任命されて支配。

＊里(さと)‥５０戸を１里として里長を置く

＊九州に(　　)を設ける⇒九州の全域の行政。東北に(　　)を築き(　　)に備える。

☆都と地方をむすぶ交通‥・役人の往来のための駅・駅馬・駅鈴。税を運ぶ民衆も利用。

[**人々の暮らし**]p47

☆身分制度・・・６年に一度つくられる戸籍に登録される

（　　）‥大部分は一般の民衆,他に貴族･役人　　※この上に絶対者としての天皇がいる

（　　）‥奴婢などの奴隷‥良民とは結婚できない。 良民との子は賤民となる

＊全国の人口約600万人，平城京の総人口は10万人ほど‥役人は約1万人で貴族は200人ほど。

☆**班田収授法**(はんでんしゅうじゅのほう)‥人々(公民)に土地を貸し与えて税をとる制度

6年ごとに作成する戸籍にもとづき家(戸こ)ごとに(※　　)を与え税を取る

※6歳以上の男子に(　　)段たん(反‥約23a)、女子にはその2/3＝(　　)段。

奴婢には‥それぞれ良民の1/3(奴2/3段，婢4/9段) ⇒家族分の合計を戸に割り当てる

☆税や労役・・・成年男子(17歳以上)にかかる。貴族は免除。

＊(　　)=収穫した稲の(　　)%・・・地方税で、各地方の役所(国衙こくが)に納める。

＊(　　)=各地の特産物、絹・布(麻布など)・綿(真綿)・塩など

＊(　　)=布(都で働くかわりに納める)　→自分たちで都まで運ぶ※のが大変

※運脚うんきゃく＝運ぶ労働そのものが税　　※相模の国から都までは(　　)日かかる

※地代＝土地にかかる税。その中心は①労働→②生産物→③貨幣の順で変化した。

＊雑徭(ぞうよう)・・1年に60日以内の労働(池や堤の土木工事などを地方で行う)

＊兵役(へいえき)‥都の守りにつく衛士(えじ)、九州の守りに行く(※　　)

※防人に 行くは誰(た)が背(せ)と 問う人を 見るが羨(とも)しさ 物思(ものも)いもせず

防人に行くあの人は誰の夫なのと無邪気に聞く人を見るととてもうらやましい(あの人は私の夫です！)。

＊出挙(すいこ)‥強制的に種もみを貸し付けて高い利息(5割以上)をとる

重すぎる負担→農民の苦しさ・・山上憶良(やまのうえのおくら)の詩「　　」

⇒**農民の抵抗** ＊戸籍や年令のごまかし・居住地からの逃亡など　→荒れはてる土地へ

☆班田収授法の行き詰まり＝災害や逃亡で耕地(　　)が不足し、田が荒れる。

→土地の私有をしだいに認め、開墾をすすめる。　※私有地でも税はかかる。

(1)７２３年(三世一身法)‥耕地の復活は1代,新開田は3代の期間土地を私有できる

(2)７４３年(　　)‥開墾した土地はすべて永久に私有を認める。

⇒大貴族,大寺院,大神社などによる大規模な開墾(地方豪族と協力)

私有地の増大⇒公地公民制(天皇の土地，天皇の民)という無理な制度がしだいに解体へ向かう

１２　天平文化

[**神話と歴史書の完成**]p48

☆日本の国家のおこりや天皇の支配のいわれを神話や伝承・記録をもとにまとめた歴史書

＊「＿＿＿＿＿＿」712年3巻‥稗田阿礼の暗記した内容を太安万侶が筆録したとされる。

＊「＿＿＿＿＿＿」720年30巻‥国家の正史として歴代天皇順に記録。

当時の政権の正統性を証明するための意図がありそのままの事実ではない。共にすべて漢文。

☆地方の国ごとに自然や産物、伝説などをまとめた「＿＿＿＿＿＿」

＊完全なものは出雲の国のものだけ。他に常陸・播磨・豊後・肥前の一部が残る。

☆日本古来の歌を集めた約４５００首を２０巻にまとめたもの＝「＿＿＿＿＿＿」

＊漢字の音や訓を使って日本語の音をあらわす方法＝(万葉仮名)で書き表す

※何らかの意図で,２種類の民衆の歌を含む(東国民衆の東歌(あずまうた),東国から動員された防人歌)。

それ以外はすべて天皇や貴族など都周辺の上流階級の歌。その後の歌集にも民衆の歌は全くない。

→{歴史ビュー：**現代に続く和歌の伝統**}は事実に反する。(『誤読された万葉集』古橋信孝･新潮新書)

＊君待つとわが恋をれば わが屋戸(やど)のすだれ動かし秋の風ふく　(額田王ぬかたのおおきみ)

憶良らは今は罷(まか)らむ子泣くらむその彼(か)の母も吾(わ)を待つらむぞ　(山上憶良)

世の中を憂(う)しとやさしと思へども飛び立ちかねつ鳥にしあらねば　(　〃　)

銀(しろがね)も黄金(くがね)も玉も何せむに勝れる宝子にしかめやも　(　〃　)

田子の浦ゆうち出て見れば真白にぞ不二の高嶺に雪はふりける　(山部赤人)

うらうらに照れる春日に雲雀(ひばり)あがり情(こころ)かなしも独りしおもえば　(大伴家持)

振りさけて若月(みかづき)見れば一目見し人の眉引(まよびき)おもほゆるかも　(　〃　)

君が行く道のながてを繰り畳ね焼き滅ぼさむ天の火もがも　(狭野茅上娘子さののちがみのおとめ)

信濃路は今の墾道(はりみち)刈り株(ばね)に足踏ましなむくつはけわが背(せ)　(作者不詳)

[**奈良の都に咲く仏教文化**]p48,49　「あをによし奈良の京は咲く花のにおふがごとく今さかりなり」小野老※

☆(＿＿＿＿＿＿＿)＝仏教と唐の文化の影響を強く受けた聖武天皇のころの文化

☆聖武天皇の時代･･･社会不安が深まる←皇族と貴族の争い，凶作,伝染病(天然痘など)の流行

聖武天皇と光明皇后⇒仏教の力によって争いや災いをなくし世の中を安定させようとする。

聖武天皇は鑑真から初めて戒名を授けられた。それ以降近世まで天皇家の信仰は仏教となる。

☆全国の国ごとに(＿＿＿＿＿)と(　　)を建てさせる。他にも多数の官寺を建設。

都には総国分寺として(＿＿＿＿＿＿)を建て、(※＿＿＿＿＿)※廬遮那仏を本尊とした。

＊奈良時代の仏教･･･個人を救うのではなく国家の安定･繁栄を祈る＝国家仏教

民衆と共に橋や用水路をつくり、民間で布教した僧‥(　　)→東大寺建設に協力させる

☆＊建築・・東大寺の(　　)，鑑真によって建てられた(　　)

高床で三角の木材を組んで壁とする校倉造の(　　)正倉←さまざまな宝物

＊彫刻・・興福寺の阿修羅像,東大寺法華堂の日光･月光菩薩，東大寺戒壇堂の(　　)像

唐招提寺の(　　)像(入滅=死亡直前に制作されたと言われる日本最古の肖像)

＊美術工芸品・・正倉院宝物（聖武天皇夫妻の愛用品・・五弦の琵琶，紺瑠璃坏など）

※莫大な費用をかけ多くの民衆を動員した造寺造仏→民衆の負担が重く社会の疲弊をまねいた。

歴史ズームイン　神話に見るわが国誕生の物語

「古事記・日本書紀」→「記紀」

※この部分はほとんど戦前の『尋常小学國史』上巻の焼き直しなので，大いに注意が必要です。

●日本の神々の物語●p50　　↑天皇制軍国主義につながったとして戦後教育から排除された内容

＊イザナギ・イザナミによる国土の創生　＊イザナギの子，太陽神(　　)とスサノオ

＊神々の国(　　)を支配するアマテラス　＊スサノオの乱暴とアマテラスの岩戸隠れ

＊スサノオのヤマタノオロチ退治　＊スサノオの子孫(　　)

●三種の神器と神武天皇●p50,51

＊天照大神が孫のニニギを地上につかわし支配させる。八咫鏡(やたのかがみ)・八尺瓊勾玉(やさかにのまがたま)・天叢雲剣(あめのむらくものつるぎ=草薙剣)を持たす。　(古事記が伝える話。書紀では高皇産霊神(たかみむすびのかみ)がニニギを下し，鏡・玉・剣を持たせた話は本文ではなく「一書」)。

※天皇即位の際に「三種の神器」を受け渡す儀式は南北朝の頃からとされる。支配者が宗教的権威を持っていた時代の前期古墳に副葬される「宝器3点セット」との共通性が注目される。

＊ニニギの天下った場所＝日向の高千穂(霧島山系の高千穂峰と宮崎県高千穂町が争う)

＊カムヤマトイワレヒコ(ニニギの孫)の東征→大和を平定して橿原で即位。初代「神武」天皇へ。

抵抗する者を徹底して倒す。「まつろわぬ人どもを退けはらいて・・」(古事記)「流るる血踝(つぶなぎ)を没(い)る(血でくるぶしまで埋まった)」(日本書紀)。ヤタガラスは道案内の三足のからす。

※戦前教育では，迷わず敵を倒し,ひるむことなく進む,勇ましい神武の闘いが讃えられた。

※この神話がどのような歴史的事実を反映したものかさまざまな説・論争がある。

＊「神武」即位の年と日=辛酉年春正月朔日かのととりのとしはるしょうがつさくじつ(一日)→中国の辛酉革命説(辛酉の年に大変革が起こる)を元に推古9年(601年)の辛酉から1260年(60年×21，一蔀(ぼう)さかのぼらせた年の元日とした。西暦紀元前660年となり日本では国家の成立などあり得ない。

※明治時代に**「紀元節」**をつくるために「正月朔日」を太陽暦に換算させたが，暦のない時代の「伝説の日」なので，当初1月29日，次に「簡法あいたて」**2月11日**とした。根拠は全くない。

1966年国民の祝日となったが根拠がないため「建国記念日」でなく**「建国記念の日」**とされた。

●伝説の英雄が活躍する神話●p51

＊ヤマトタケル(日本武尊)の国内統一・・4～6世紀のヤマト政権の行動を一人の英雄に集約

＊「わが国の成り立ちや言い伝えを日本語で記録しておこうという機運が高まった」？

実際は7,8世紀に成立した日本の古代国家が自らの起源を説明しようとしたもの。古代の民衆が語りついだ神々の伝承とはへだたりがある。渡来系の漢人が中心なって漢文(中国語)で記録した。

※読んでおきたい古典です。「古事記」(各社文庫),「全現代語訳日本書紀」(講談社学術文庫・上下)他

歴史の名場面　大仏開眼供養

p52,53　※「大仏開眼」1907年に寺崎廣業が当時の様子を想像して描いた

☆莫大な国費を投入し，民衆を大量動員するこの大工事には，政権内部からの批判があった※。

※757年橘奈良麻呂が，失敗した反乱の理由を「東大寺などを造って人民が辛苦している」と供述した。

☆地震･干ばつ･飢饉･天然痘流行などによる社会不安を仏教の力で鎮めるねらいだが, この大事業の負担が民衆を苦しめた。民衆が協力したのは，民衆のための布教をして弾圧されていた行基を東大寺造営の勧進や大僧正に取り立てたため。手放しで礼賛するこの教科書の評価は事実に反する。

☆752 年 4 月の開眼供養時には鍍金が始まったばかりで，光背を含めて完成したのは 771 年 4 月。1180 年と 1567 年に戦火で焼け落ち, 現在の頭部は江戸時代,胴体は鎌倉時代,台座は当時のもの。

１３　平安京と摂関政治

[**平安京**]p54

☆奈良時代後半の政治の混乱･･貴族や僧侶の勢力争いがたびたび起こる(僧道鏡の政治介入など)

☆桓武天皇･･母親は百済からの渡来人の子孫(高野新笠たかののにいがさ),父は天智天皇の子孫

＊784 年(　　)に都を移す→水害やさまざまな妨害で都づくりを断念。

＊現在の京都の地に都を移し，(＿＿＿＿＿)とする。p54 平安京模型･･現在の京都市はさらに拡大

＊この(＿＿＿＿)年から鎌倉幕府成立(1192 年ころ)までの約 400 年間を(＿＿＿＿)時代という。

[**桓武天皇の政治**]p54

☆地方政治の引き締め･･･不正な国司・郡司などの行動を取り締まる

＊農民の負担を軽くする･･･多くの兵役の廃止、労役の日数半減、口分田の支給など

＊都づくりと東北の蝦夷支配の強化に力を入れる→民衆の苦しみ増大→805 年停止(←藤原緒嗣の意見)

☆朝廷は東北地方の住民を(　　)と呼んで差別し、支配していた。

＊日本海側に出羽の柵(さく)、太平洋側に(　　城)を建設

＊蝦夷の反撃･･･780 年多賀城を炎上させる。789 年(※　　)が政府軍を撃破。

→(　　)を(＿＿＿＿＿＿＿)に任命して派遣→蝦夷軍の首長を降伏させる。

※アテルイは京都に連行され処刑される(高橋克彦の『火怨ー北の燿星アテルイ』講談社文庫をぜひ)

[**藤原氏の成長**]p54,55　　※天皇の外戚(がいせき母方の親戚)として権力をにぎる

☆(　　)氏が他の有力貴族をしりぞけて勢力を伸ばす。

＊娘を天皇の妃(きさき)として、その子どもを次の天皇に立てる※。⇒孫の天皇をコントロールする

☆天皇が幼少の時には(＿＿＿),成人すれば(＿＿＿)となって政治を行う。⇒(＿＿＿＿)政治

＊**１１世紀前半の藤原(　　・　　)父子の時**に最もさかん⇒朝廷の高位高官を独占する

※藤原氏によって右大臣から九州･大宰府の臨時長官にされた人物(　　)(→天神信仰)

＊藤原道長の和歌「

(三女威子まで入内した祝宴で詠んだ)」(藤原実資『小右記』は道長に批判的)

＊都で出世できない中下級貴族→藤原氏に贈り物をして国司に任命してもらう

⇒藤原氏に富・財産が集中　　＊迷信深く、形式や儀式だけが大事にされる政治が続く。

[**乱れる地方の政治**]p55

☆平安時代初期に戸籍や班田収授は完全に行われなくなる　⇒土地私有の許可

⇒貴族･寺社･地方豪族ら,開墾して広い私有地(＿＿＿)を持つ。

＊地方豪族の動き･･中央の大貴族・大寺社に土地を寄進(寄付)して荘園とし、年貢を納める。

＊中央の大貴族→朝廷を動かし特別の権利を入手。①不輸の権=寄進した土地の税を納めなくても良い。

②不入の権･･･寄進した土地に国司を立ち入らせない。

＊中央の大貴族･寺社は荘園の持ち主(荘園領主)となり,地方豪族は地元で荘園の管理者(荘官)となる。

☆全国の公領(朝廷の支配地)⇒国司が一定の税を納めて自由に管理する。(国司による公領の私有地化)

→赴任した土地で金儲けだけはかる国司，代理人を送って都に居すわる国司，などが普通となる。

１４　新しい仏教と国風文化

[**仏教の新しい動き**]p56

☆留学僧が伝えた新しい宗派･･･遣唐使と共に中国(　　)に渡り、新しい仏教を伝える

＊①(＿＿＿＿)＝伝教大師･･･(＿＿＿＿＿)宗、本山は比叡山(　　)(滋賀県･京都府)

②(＿＿＿＿)＝弘法大師･･･(＿＿＿＿＿)宗、本山は(　　)(和歌山県)

＊特徴･･＊人里離れた山の中に寺院を建立し、厳しい修行をする＝**山岳仏教**

＊政治と結びつく従来の仏教を批判し、朝廷や貴族に支持される

＊いのりやまじないによって(密教)、国を守り，やがて人々の悩みを解決しようとする

[**国風文化と国文学の発達**]p56.57　　p16,17「貴族の生活を見てみよう」参照

☆唐との交流＝唐や新羅の商船を利用して人々がさかんに唐と往来⇒平安初期の唐風文化･･･貴族たちが中国の文学や歴史書を読み漢詩(中国語の詩)を作るなど。⇒唐の混乱と衰退

⇒遣唐使の廃止(　　年)←(　　)の意見。

☆平安時代半ばから⇒日本の風土や生活にあう優美で繊細な貴族文化=(＿＿＿＿文化)が発展。

＊律令政治が日本風に定着したこと、中国文化が消化吸収されたことなどから。

＊貴族の住宅＝(＿＿＿＿＿)･･･檜皮(檜の皮(かわ＝はだ))ぶきの屋根、池や築山のある庭。

＊日本風の服装･･男性の衣冠･束帯,直衣･狩衣,女性の女房装束(十二単じゅうにひとえ),小袿(こうちぎ)など

＊絵画＝(＿＿＿＿＿＿)･･･やわらかな線、はなやかな色で描く⇒寝殿造りの襖や屏風や絵巻物に。

絵巻物･･絵と文章をおりまぜて物語を展開する･･『源氏物語絵巻』『平治物語絵巻』など

＊文学 @(＿＿＿＿)の成立･･漢字の一部を使う(　　)と漢字をくずす(　　)

⇒感情や心の動きなど日本語の自由で豊かな表現を可能にする。 p59 歴史ズームイン参照

・かぐや姫の一生を描く･･･『＿＿＿＿＿＿＿＿＿』(作者不詳)

・日々のさまざまな思いを書いた随筆･･･(＿＿＿＿＿＿＿)の『＿＿＿＿＿＿＿』

・貴族の生活と感情を深くとらえた小説･･(＿＿＿＿＿＿＿)の『＿＿＿＿＿＿＿』

※「世界最古」長編小説とするのは無理→　古代ローマの『黄金のロバ』(アプレイウス作,2 世紀),

古代ギリシャの『ダフニスとクロエ』(ロンゴス作,２ｃ末から３ｃ初め)などもある。

※貴族の女性がすぐれた作品を生みだした理由は何だろう？

(　　)

・すぐれた和歌を編集したもの･･･『　　』(10 世紀はじめ)

中心となった人･･(　　)･･紀行文『　　日記』を仮名で書く

※「男もすなる日記(にき)といふものを女もしてみむとてするなり･･」

漢字＝真名(まな･本当の字)＝男文字、仮名(仮の字)＝女文字という意識があった

人物クローズアップ：学問の神様・菅原道真　p57

☆菅原道真(すがわらのみちざね)‥学問に優れ宇多天皇に信頼されて右大臣に出世したが，ライバルを蹴落として権力確立をはかる藤原時平によって九州大宰府の副長官に左遷させられた。都を去るとき詠んだ「東風(こち)吹かば にほひをこせよ 梅花(むめのはな) 主なしとて 春を忘るな」の歌を残し,恨みをのんで死んだ。死後,時平はじめ有力者の死亡,宮中への落雷など変事が続き道真の祟りと恐れられて，霊を鎮める儀式が行われ，天神・学問の神として北野天満宮に祭られた。※防府天満宮が道真の死の翌年創建という。

[浄土教と浄土教芸術]p57

☆平安中期からの(　　)の流行‥1052年から仏法が衰える末法の世となるという考え。

⇒念仏を唱え(　　)すがって救いを求めれば、死後に極楽浄土に生まれ変わることができるという(　　)が発展←源信や空也の布教　※「　　」を唱える空也上人像

⇒貴族たちに深く信仰され,各地に阿弥陀仏の像とそれを納める阿弥陀堂がつくられる※。

※藤原頼通が建てさせた宇治の(　　)鳳凰堂=本尊は定朝(じょうちょう)作の(　　)

→全国各地へ‥東北・奥州藤原氏が平泉に建てた(　　)など。

☆迷信のひろがり･･･悪霊(あくりょう)のたたりをおそれ、それを退散させる祭りをしきりに行う。

摂関政治のもと、貴族たちも自分で運命を切り開くことができず、不安な生活を送った。また、乾燥食品を中心とした栄養の貧弱な食事と極度の運動不足から、健康を害しているものが多く、陰陽道(おんみょうどう)によるさまざまな 迷信(大安・友引などの日取り、星回り、相性、生年の干支、鬼門などの方角･･･)にもとらわれて自由に行動できず無気力・不健康な精神状態が続いた。あの道長も糖尿病に悩み白内障に苦しみ心臓の発作にしばしば襲われ、背中にはれ物をつくって、地獄を恐れて写経を繰り返しながら不安の中で死んでいった。

☆仏教と在来信仰‥仏教でまじないや祈祷(きとう)にたよる**密教**がさかんになるにつれ在来の神社信仰との融合が進む→(　　)=日本の神はインドの仏が仮の姿をとったものとし,神と仏を共に敬う

(神社の境内に神宮寺,寺院の境内に鎮守神など→江戸時代までそれが普通)

[東アジアの変化]p57

☆唐が滅亡907年→(　960年～)が979年に中国を統一。都は開封，後に南宋となり(都は臨安)1279年まで。

☆朝鮮半島で(　　)がおこり新羅を滅ぼして統一(935年)。

⇒宋や高麗との商人の往来など民間交流がさかんにおこなわれる。

p58最澄と空海，p59かな文字の発達，p60~61奈良・京都の文化遺産を調べてみよう　→省略

p62,63　学習のまとめ①　大和朝廷とするのは育鵬社・自由社だけ。世界一,日本一には無理がある。

p64 なでしこ日本史その１補足

＊「推古天皇」‥No１１で記述の通り，「天皇」と称した最初は天武とするのが通説。

＊「36年間，中継ぎ役の女帝」‥対立を収めるために叔父の大臣蘇我馬子によって擁立されたと思われるが，36年間もの「中継ぎ役」はあり得ず，近年の研究では推古の積極的な政治関与を評価するようになっている。むしろ改革の中心とされてきた「聖徳太子」(厩戸王子)の実態は謎が多く，その政治的実績を否定する「聖徳太子否定説」も出されている。572年から627年まで50年以上も大臣(おおおみ)として意に沿わぬ大王を殺すまでの力を持っていた馬子との関係をふくめ，『日本書紀』の記述のままでなく，ていねいな研究が求められている。

＊光明皇后‥「夫の聖武天皇とともに熱心な仏教信者」で施薬院や悲田院を設けたが,夫妻の発願による東

大寺や国分寺建立の大工事が人民を苦しめ国家財政を圧迫したことを知る必要がある。

＊紫式部‥「こまやかな心理描写とすぐれた個性のえがき分けなど，近代文学に通じる長編小説」であり，素晴らしい価値をもっている。しかし，「ヨーロッパで小説が書かれる数百年も前に，日本女性によってつくられていた」は余計なことで全くの間違い。※　No１８参照。

※他国や他の地域と比べて日本は優れていると言いたがるこの教科書の悪い癖にとらわれないように。

歴史絵巻　～中世～　え～っ，これはチョット？

＊「平氏にあらずんば人にあらず」と平清盛が言っているような絵→「平家物語」では平時忠とする

＊源頼朝のイラストは神護寺の伝源頼朝像を元にしているが，今はこの画像は足利直義説が有力。

＊北条政子は安養院の木像が元か？。足利尊氏は何を元にしたのか？。歴史的な人物の画像は根拠のあるものにするべきだろう。　　原始古代編の「聖徳太子」イラストにも根拠がない)。

＊元寇の絵‥石塁から沖の元の軍船に矢を射かけているがあり得ない。上陸した敵を射るものだ。

＊南朝の建物が吉野の山の頂上に描かれている→屋敷はふもとにあった。

第２章　中世の日本

第１節　武家政治の成立

１５　武士の登場と院政

[**武士の登場**]p70

☆豪族･有力農民の武装化　＊開墾地に重税をかける国司との争い、＊他の有力農民との争い

↓　　＊盗賊からの自衛　　などのため。とりわけ関東など東国でさかん。

＊武力をたくわえ、武芸をみがき、いざという時には下人(げにん)を引き連れ一族団結して闘う。

☆朝廷の武官(軍事貴族)が地方に下向し，地方豪族の争いを治め，彼らを従えて都でも活躍する。

→皇族や貴族の家に仕える侍(さむらい)となり都の警備役をつとめる⇒闘いを職業とする**武士**へ

※さぶらふ(身分の高い人の側近く仕(つか)える)→さぶらひ→さむらい(侍)

＊有力な豪族のもとに結集してつくった武士の集団＝(＿＿＿＿＿＿)の発生

☆武士の頭(棟梁とうりょう)･･･任期の終わった国司などが地方に住み着き、武士の頭(かしら)として武士団の結集の中心となった。※棟(むね)と梁(はり)→屋根を支える

＊特に有力な武士団･･･①(＿＿＿＿＿＿)･･･清和天皇の子孫を中心(棟梁)とする

11 世紀後半東北の戦乱を鎮めた(　　)が東国で有力に。

②(＿＿＿＿＿＿)･･･桓武天皇の子孫を中心(棟梁)とする

12 世紀頃、西国に勢力を伸ばす。

☆１０世紀の２大反乱　＊(　　)の乱 935~940 年

一時は関東を支配して新皇と称する→平貞盛らがおさえる。

＊(　　)の乱 939~941 年

海賊となって瀬戸内の国府をおそった→源経基らが平定。

[**院政のおこり**]p70　　※天皇の外戚(母方の親戚)という関係にたよる藤原氏の権力のもろさ
☆摂関政治のおとろえ‥藤原氏が外戚でない後三条天皇が即位→荘園整理令，朝廷の財政の整理
☆(＿＿＿＿＿)の開始‥1086年(＿＿＿＿)天皇が天皇の位を息子に譲(ゆず)って上皇となり、**院**に移って政治を行う(天皇の父方による政治)→藤原氏に代わって荘園を保護し，全国から荘園が集まる。
＊武士の採用･･･武士を用いて院の警備(北面の武士)をさせたり、僧兵に対抗させる。
☆(＿＿＿＿)の乱(1156年)‥後白河天皇が源義朝と平清盛の武力を使って崇徳上皇をたおす。
⇒武士の武力が政治を動かすことを天下に示し，源平両氏の棟梁に政治的野心をうながす。

[**平氏の繁栄**]p71　　※元は「一門にあらざらん者はみな人非人なるべし」で，出世できない人ほどの意味とも。
☆平治の乱(1159年)‥(＿＿＿＿＿)が源義朝をたおし、政治の実権をにぎる。※「平治物語絵巻」参照
☆平氏の天下 (1160年代から1170年代)
＊平清盛、(　　)となり、平氏一門が高位高官を独占し、全国各地の荘園に進出。
＊(大輪田泊(おおわだのとまり)＝神戸)港を整備し(　　)との貿易で利益をあげる。
⇒「平氏にあらずんば人にあらず(平時忠)」‥※平氏でなければ人ではない＝平氏の勢力の絶頂
＊娘(徳子→建礼門院)を天皇の妃とし、その子を天皇(安徳天皇)とする。
☆平氏へ反感‥(1)後白河法皇,公家,寺社などの旧勢力=権力が平家にうばわれたことが不満
(2)全国各地の武士たち新勢力=武士の代表であるべき平氏が貴族化して一門だけが繁栄
⇒清盛の死(1181年)後，源氏への期待が高まる。

16　武士の世の到来と鎌倉幕府

[**源氏の挙兵と平氏の滅亡**]p72
☆平氏を倒す動き＝**源平合戦**(げんぺいかっせん)の開始（＿＿＿＿）年
＊以仁王(もちひとおう=後白河法王の皇子)が平氏討伐を呼びかけ⇒各地の反平氏勢力が挙兵
①伊豆(　　)，②木曽(　　)，③奈良の寺の僧兵
→平氏、奈良の(　　)，興福寺などを焼き討ちにする→仏教界を敵にする
→平氏、富士川の合戦で源頼朝に敗れる(戦わずにして敗走)。
＊１１８３年　平氏、西国(さいごく)へのがれる⇒源義仲、京都に入り権力をにぎる。
→義仲は朝廷や院と対立し、民衆の支持も失って、翌年源義経らに滅ぼされる。
＊１１８４年　(　　)の戦い･･･神戸市西部の海岸
＊１１８５年　(　　)の戦い･･･四国香川県高松市東部の海岸
〃　　(＿＿＿＿＿)の戦い･･･山口県下関市⇒平氏の滅亡 (安徳天皇も入水※)↓

[**武士の都・鎌倉**]p72,73　　※じゅすい=水に入って死ぬこと
☆源平合戦の源氏側の戦闘指揮者(　　※)のその後の運命
→頼朝の指導に従わなかったため、破門され全国指名手配の末、身を寄せた奥州藤原氏の手で殺害された(自死)。※判官源九郎義経‥後世同情を呼ぶ→判官(はんがん･ほうがん)びいき
☆頼朝の全国支配へ‥義経追討を名目に後白河法王に強要して，国ごとに国内警備に当たる(＿＿＿)、荘園や公領ごとに年貢取り立てや治安維持を行う(＿＿＿)を置かせる(＿＿＿)年
⇒源頼朝，自ら大軍を率いて(　　※)を滅ぼし全国を制覇(　　年)。※次ページ

☆１１９２年、源頼朝,法王に要求して(※＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿)に任命される。

※これ以降、武士の頭として政権をにぎる者はこの職に任命されるようになる。

＊将軍が政治を行う場所を(＿＿＿＿※)と言い、後に武士の政権の意味となる。　※幕で囲った戦場の指揮所

＊頼朝が開いた幕府・・(＿＿＿＿＿＿＿＿)、その後約 150 年間※(＿＿＿＿＿＿＿＿)。↓

※鎌倉幕府の開始・・近年は，守護地頭を設置して全国支配を開始した **1185 年**とする説が有力。

※鎌倉時代は朝廷と武士の政権が並立・・室町時代から江戸時代にかけては朝廷に政治権力はなくなる。

※**奥羽の豪族　藤原氏** 11C なかばから岩手県平泉を中心に中央から独立した勢力として栄えた。

奥州の砂金や馬が繁栄のもと→(　　※)にその豊かさが残る。※p73 写真

歴史ビュー　源頼朝はなぜ鎌倉を選んだか　p73 ※①が基本。複数の候補地から選んだわけではない。

①東国が源氏の地盤であり、鎌倉は先祖源頼義以来のゆかりの土地で従う武士が多い土地だった。

②鎌倉の地形＝(　　)

③京都は避けたい=(　　)

☆武家政権のしくみ　　p73 上図

＊中央　①侍所・・御家人を統率する　　＊地方　④(＿＿＿＿)・・国ごとの軍事・警察

②政所・・一般の政治　　⑤(＿＿＿＿)　・・荘園・公領の監督

③問注所・・領地争いなどを裁判　　④,⑤の設置・・(　　)年

※後に，将軍を補佐する(　　)，京都の警護・朝廷の監視をする(　　)を置く。

１７　幕府政治の展開と人々の暮らし

[**北条氏の政治**]p74

☆頼朝の死後→(　　)が幕府の実権をにぎる→北条氏による支配へ

＊他の有力な御家人をしりぞけ、将軍を補佐する(＿＿＿＿)となって幕府を動かす。

※北条氏はもともと伊豆の平氏で、北条時政は伊豆に流されていた頼朝の監視役。政子は平政子と署名していた。

＊３代将軍(　　)が暗殺される(1219 年)⇒源氏の将軍の血統が絶える

＊尼将軍(＿＿＿＿＿＿)とその弟の執権(＿＿＿＿＿＿)がとった対策

＝京都から公家(藤原氏)の子を迎えて名ばかりの将軍とし、執権が政治を行う。

☆朝廷側(中心は　　)、幕府から政治権力を取り戻そうとする。

＊(＿＿＿＿＿)年、北条義時を討てと全国に命令して挙兵⇒(＿＿＿＿＿＿の乱)

→幕府側は、義時や政子を中心に団結して大軍で都に攻め上り、朝廷側を圧倒し大勝利。

☆乱の処理　＊後鳥羽上皇など３人の上皇を遠国(後鳥羽は隠岐島へ)に流し、天皇をやめさせる。

＊朝廷側の公家や武士の領地を取り上げ、東国の御家人を(　　)とする。

＊京都に(＿＿＿＿＿＿＿＿)を置き、朝廷や西国の御家人を監督させる。

⇒幕府の勢力が西国まで強まり、朝廷は幕府にお伺いをたてるようになる。

☆武家の法律・・執権(＿＿＿＿＿＿＿＿)が(＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿=貞永式目)を作る 1232 年

＊全文 51 か条、慣習にもとづく現実的でわかりやすい法⇒その後長く武家の法律の手本となる

[**武士の暮らし**]p74,75　　＊封建制度・・武士が土地を仲立ちとして主従関係を結び、農民を支配する社会のしくみ

☆将軍は家来となった武士(　　※)との間に封建的主従関係を結ぶ。

(＿＿＿＿＿＿)・・・土地の権利を保障し、手柄があれば新たに土地を与える。

主君(将軍)	→	※「御」は主人への敬語 家来(　　)
	←	

(＿＿＿＿＿＿)・・・命令に従い、「一所懸命いっしょけんめい」に戦う。

☆武士の日常・・①住居・・荘園や公領の中の土塀や堀をめぐらした板ぶきの館に住む　p68,69 参照

②農業経営(屋敷まわりの広い田畑で下人を使って耕作させ、小作もさせる)

③荘園の管理・・年貢を取り立て荘園領主に送る(荘官の役割)

④武芸の訓練・・馬と弓矢を中心に常に心身を鍛える→「　　」「犬追物」など

→武士らしい心構え・・「弓馬の道」「　　の道」などとよぶ

☆惣領(そうりょう=家長)が一族を統率し、領地は分割相続→女性の(　　)や御家人もいた。

☆地頭の強大化・・土地や農民を力づくで支配※し、領主と対立して権力を強める

地頭と領主の争い→幕府の法廷で裁く→地頭の権利が強まる　↓資料集などで補う

⇒※村を中心にして団結し地頭を訴えた民衆も・・和歌山県　**阿氐河荘**あてがわのしょう**農民の訴え**

[**社会のようす**]p75

☆農業の発展・・稲作と畑作(麦など)の(　　)の広がり，鉄製農具や(　　)を使った耕作

,(　　)の肥料、(　　)など他種類の作物の栽培が広がる。

☆手工業と市(いち)の発展・・＊農村に住み着く手工業者(　　、　　など)

＊寺社の門前や交通の要地などで(＿＿＿＿＿＿)※が立つ。

※鎌倉時代は月に３回の三斎市(2,12,22 日→二日市など)→室町時代には六斎市(月 6 回)

→しだいに商人が住み着き常設の市(見世棚=店)がつらなり町となるところも。

p75 上「市のようす」・・（福岡の市）　地元の特産物や織物，工芸品が売られている。

＊(＿＿＿＿)・・日宋貿易で日本に大量に流入し，広く使われて貨幣経済が発展した(右欄外)。

１８　新しい仏教と武士の文化

[**鎌倉時代の仏教**]p76　※国家仏教から個人の救いや悟りを得るための教えとして民衆へ

☆新しい仏教・・「末法」の世の不安の中，誰にでもわかるやさしい方法で仏教による救いを説く。

(1)阿弥陀仏の救いによって極楽浄土にうまれかわる

＊(＿＿＿＿)の**浄土宗**＝「　　」の**念仏**を唱えるだけで

極楽往生(ごくらくおうじょう)(極楽浄土に生まれ変わること)ができると説く。　(知恩院)

＊(＿＿＿＿)の**浄土真宗**・・「善人でも往生できるから悪人が往生できないわけはない」・・自分が悪人と

自覚している人はひたすら阿弥陀仏にすがるから正しく往生できる(悪人正機説)　(東西本願寺)

＊(＿＿＿＿)の**時宗**・・誰でも阿弥陀仏のおかげで極楽往生できる喜びを踊り念仏で表す　(遊行寺)

(2)法華経こそが仏教の真理だから「　　」の**題目**を唱えるだけで救われる。

(＿＿＿＿)の法華宗(　　宗)　(身延山久遠寺)

(3)座禅によって自らの力で真理をさとり、心の平安を得る。＝**禅宗**　中国(宋)の新しい仏教

＊(＿＿＿＿)の**臨済宗**・・鎌倉幕府の保護を受けや上級武士の信仰を集める　(京都五山,鎌倉五山)

＊(＿＿＿＿)の**曹洞宗**・・権力から離れ、自力で悟りをひらく(永平寺，総持寺)。

＊宋から来日する禅僧,，宋に渡る禅僧・・文化を伝え,幕府の知的な基盤となる(朱子学など)。

☆仏教の主流は朝廷や幕府が保護した天台宗や真言宗・・民衆にとっては領主層であり,新仏教を弾圧した。

民衆の救済をめざした新仏教は室町時代にかけてしだいに普及する⇒現代日本の仏教の主流

[**武士の文化**]p77

☆文化の担い手はまだ公家や僧→朝廷の文化を見直す動き

＊代表的な和歌集・・『＿＿＿＿＿＿＿＿』・・(　　)の命によって藤原定家※らが編集

※貴族で「百人一首」の撰者。元武士で 94 首も選ばれた(　　)、鴨長明など

＊社会や人生を見つめる随筆・・①鴨長明の「　　」、②吉田兼好の「　　」↓冒頭部分

①「ゆく河の流はたえずして、しかももとの水にあらず。よどみに浮かぶうたかたは、かつ消え、かつ結びて、久しくとどまりたるためしなし。世の中の人とすみかと、またかくのごとし」

・・無常観(すべてのものは移り変わってゆくという考え)と，それでも生きていく覚悟を示す

②「つれずれなるままに日暮らし硯にむかいて、心に移りゆくよしなしごとを、そこはかとなく書きつくれば、あやしうこそものぐるおしけれ」・・人生の達人が観察した人生の断面。

※「世の中のはかなさと人生の無常をつづった随筆」？！(→まともに読んでいないのでは。)

☆しだいに武士の気風(飾り気のない力強さを好む)広がる

＊文学・・(　　)・・武士の戦いのありさまをえがき、琵琶法師が語る→

『＿＿＿＿＿＿』が代表作・・平氏の繁栄と没落を無常観をもとに描く

「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり、娑羅双樹の花の色、盛者必衰のことわりをあらわす。おごれるもの久しからず、ただ春の夜の夢のごとし、たけき者もついには滅びぬ,ひとえに風の前の塵に同じ」

☆皇族・貴族，武士や民衆の寄進を集めて再建された東大寺

＊宋から入った力強い建築様式(天竺様)→「　　」など

＊(　　※、快慶)らの慶派の仏師が力強い彫刻作品を制作→「　　」

※無著・世親像など写実性に優れた傑作→運慶が指導し無著像は運助，世親像は運賀が制作。

☆絵画：＊肖像画(　　)・・人物や牛馬の容貌を像主に似せて描いた略筆で小型の肖像。

※神護寺の「伝源頼朝像」は足利直義，「伝平重盛像」は足利尊氏説が出され論争中。似絵でもない。

※大燈国師像(大徳寺蔵)建武元年(1334 年)作，夢窓国師像(夢想は間違い,円覚寺蔵)は室町時代。

＊絵巻物・・戦いや僧の伝記をえがくすぐれた作品が多い。　　※「一辺聖絵」とも。

「　　」口絵 p4,p71 など，「　　※」p68,69,75,77

人物クローズアップ　百人一首と藤原定家 p77

※藤原定家が京都・小倉山(おぐらやま)の山荘でまとめた私選和歌集＝「小倉百人一首」

百人の作品が必ずしもその人の代表作でない例や駄作といえるものもあり,編集の意図が謎とされる。→百首を縦横 10 首ずつに特殊な組み合わせで並べると,定家が自分を引き立ててくれた恩人で今は隠岐に流されている後鳥羽上皇に密かにささげた歌絵巻(上皇の水無瀬離宮の風景)が浮かび上がるという説もある※林直道『百人一首の秘密』『百人一首の世界』(青木書店)　＊1000 年も昔の古典に現代人がさまざまな形で親しむ例は，ギリシャ・ローマの神話がヨーロッパ人の間で語りつがれているように世界各地にあるだろう。「百人一首」の鑑賞抜きの暗記による「かるた取り」でも，日本人の文化的素養に何かプラスになっているとよいのだが。

１９　元寇と鎌倉幕府のおとろえ

[**モンゴル帝国**]p78　　※『遊牧民から見た世界史』杉山正明,日経ビジネス人文庫参照

☆13 世紀はじめ(　　(ジンギスカン))がモンゴル高原で部族に分かれ遊牧生活をしていた民族を統一し，騎馬隊を駆使して東西に遠征し，柔軟な支配で建設した大帝国※。

☆(____)･･･チンギス=ハンの孫(　　)が中国北部に建国。都は(　　)。

＊宋(南宋)をほろぼして中国を統一(1279 年)→朝鮮半島(　　)やベトナム(大越)を侵略。

高麗征服は３０年かかり、人民はその後も元に抵抗※。※三別抄の乱(1270~73 年)など。

大越もしばしば元軍を撃退。　　→日本への遠征を遅らせる

[**元の襲来**] p78,79　　※寇＝外敵，他から侵入する賊。

☆元からの手紙･･＊日本も元に従うように要求⇒幕府はこれを拒否(1268,69,71 年など)。

執権(　　)は元の襲来を予期して準備を進める。

☆第１回の襲来　(　　)の役＝(　　)年 10 月(旧暦)　元･高麗軍約 3 万人,軍船 900 艘

＊戦いのようす･･(　　)

＊結果････(　　)※暴風雨は不確実

☆第２回の襲来　(　　)の役＝(　　)年 6 月(旧暦)

＊元は南宋を滅ぼし,大軍(東路軍 4 万，江南軍(宋の兵)10 万)を用意して朝鮮･中国の２方面から日本に進撃。

＊２回目も失敗　その理由 { @石築地(防塁)などを準備した日本軍の抵抗で上陸できず / @ }

☆元は３回目を計画したが断念。←(※江南での反乱,ベトナムやジャワの反抗,高麗の不服従など)

※日本は独力で元寇を撃退したのではなく,元寇軍の連合軍ゆえの不団結を含め国際関係の影響も大きい。

☆日本人の意識への影響　①日本は,危機には「　　」が吹いて救ってくれる「神国」という考え。

②元に協力させられた高麗(朝鮮)を低く見る考え，など。

[**幕府のおとろえ**]p79

☆生活がいきづまった御家人たち･･＊領地の(　　)で所領が小さくなる※。

※一族の頭(惣領)が全体の面倒を見るしくみ(惣領制)が弱まり,やがて惣領の単独相続制へ。

＊元寇の影響･･自力で戦い、犠牲を払ったのに恩賞が不十分※←(　　)だったため。

※「奉公には御恩(恩賞)」という主従関係の原則が守られない→幕府への不信と不満。

＊商工業の発展･･･商品を買うための支出がふえ借金する→領地を「質」に入れる、売る

☆幕府，(　　)年(_____)を実施＝@御家人が手ばなした領地をただで回復させる。

@御家人の領地の質入れ・売買を禁止(翌年、禁止をやめる)

→御家人はかえって金を借りられず困る、領地の質入れ・売買をとめられず⇒幕府の権威は低下

☆産業と交通の発展･･農業・手工業・商業の発展→交通・港湾の発達→有力な武士や農民が活躍

⇒**悪党**※の活動＝元寇のころから近畿地方などで武士や有力農民たちが集団で行動

(　　)するなど→幕府はおさえられない

※鎌倉・室町・南北朝時代に荘園本所や幕府の支配に反抗した地頭や名主たち

ふだんは商業や運送業などにたずさわる者が多い。

☆幕府内で北条氏一門が独裁的な支配を強め、全国に領地拡大⟹御家人たちに不満強まる

このころ世界は②　ユーラシアを一つにつないだモンゴル　p80,81

◎**イスラム世界の拡大**‥7世紀，ムハンマドの説いたイスラム教が西アジアに，8世紀にはイベリア半島まで拡大しキリスト教世界をおびやかす。一方でその文化がヨーロッパに影響し，後にルネサンスを促す。

◎**中世ヨーロッパと十字軍**‥11世紀末から13世紀にかけて、聖地エルサレムをイスラム教徒から奪回するという名目で、前後8回にわたり行われた西欧キリスト教徒による大遠征(イスラム世界への侵略)。領土拡大と商業利益がからみ失敗に終わるが，西欧人の視野を拡大し都市や貨幣経済の発展を促した。

◎**モンゴルの影響**‥モンゴル帝国はユーラシア大陸の大半を占める世界史上最大の領土をもち，東西の文化交流を発展させた。中国にイスラム教が広がり(伝来は7世紀)，火薬や印刷術がヨーロッパに伝わる。

◎マルコポーロの『世界の記述』(　　)‥元で17年間過ごしたイタリア商人マルコポーロの旅行記。旅した地域の風俗，習慣，元朝の宮廷内の事情などを記し，黄金の国(　　)のうわさも伝えた。ヨーロッパ人の東方への関心をかき立て，コロンブスのアメリカ発見のきっかけともなった。

第２節　武家政治の動き

２０　建武の新政と南北朝の動乱

[**鎌倉幕府の滅亡**]p82

☆天皇家が２系統に分裂し，幕府の監視の下で交互に天皇を出す合意(1317年文保の和談)

＊(＿＿＿＿＿)天皇が即位‥朱子学を学び天皇親政(天皇が自ら政治を行う)をめざす

→2度目の倒幕計画がもれ，捕らえられて隠岐の島へ流される(1331年)→光厳(こうごん)天皇が即位

☆近畿の「悪党」※の挙兵を受け,後醍醐天皇が隠岐を脱出して鳥取県船上山にこもる(　　)年

→近畿地方とその周辺の武士(悪党)たちなど北条氏に反発する勢力が協力

(※　　)‥1331年,1333年に挙兵し幕府側の軍勢とねばり強く闘う。悪党→後「忠臣」とされる

☆幕府の有力御家人(　　・　　)らが幕府を滅ぼす＝(＿＿＿)年。

※足利尊氏は六波羅探題を攻め落とし，新田義貞の軍が鎌倉を攻めて占領する。

[**建武の新政**]p82,83

☆**後醍醐天皇**が公家や武士を従えて政治をおこなう＝(＿＿＿＿＿＿)1334年～

その中身＝時代遅れで(　　)もの※→武士や農民たちの不満強まる

p83「二条河原の落書」1334年 ‥「建武の新政」のデタラメぶりを批判する。

※二官八省や国司制度の復活など歴史を律令制の時代まで戻そうとする後醍醐の勘違い政治。

☆(　　)が不満を持つ武士を結集して京都を占領→新政の終わり。1336年

[**南北朝の動乱**]p83

☆足利尊氏、新しい天皇をたて(**北朝**)、京都に幕府を開く(=後の　　幕府)。1336年

後醍醐天皇、奈良県の(　　)に別の朝廷(　　)をたてる。1336年

⇒(＿＿＿＿＿)時代‥‥南北の朝廷が対立し、全国的争乱が約６０年続いた時代。

☆幕府のしくみ‥侍所,政所,問注所，将軍の補佐役(　　※),関東地方を治める(　　)。

※斯波氏，細川氏，畠山氏が交代で務める(三管領)。→幕府内部に主導権争いが続く。

＊尊氏，守護の権限を強め(年貢半分を守護の収入にする)全国の武士をまとめようとする

[**守護大名の成長**]p83

☆守護は領地を拡大し、領内の武士と主従関係を結び，強大な家臣団を築く。

→領国に強い支配力を持つ(＿＿＿＿＿＿＿＿)に成長。→幕府も有力守護大名の連合体へ。

２１　室町幕府と東アジア

[**室町幕府と義満の政治**]p84　　→ ※(現在の天皇は北朝)

☆３代将軍(＿＿＿＿＿＿＿＿)，京都の室町に「花の御所」をつくる⇒**室町幕府**

＊(　　)年,南朝が北朝に従い(神器を差し出す)、南北朝の内乱終わる(南北朝の合一)※

☆義満，山名氏,大内氏等の有力守護大名をおさえる。☆将軍として初めて(　　)となる。

→安定した支配を実現し，天皇・上皇を超える権威と権力を持つ。※死後，太上天皇(だいじょうてんのう)の称号を贈られようとしたが幕府側(4 代義持)が辞退。(『武家と天皇』今谷 明，岩波新書　参照)

[**明の建国と倭寇**]p84.85

☆中国＊農民反乱の指導者･朱元璋が元を北に追いやり、漢民族の国(＿＿＿)を建てる(1368 年)。

⇒強大な勢力でアジア諸国にあいさつに来るよう要求→来た国に※朝貢貿易を認める

※1405～1433 年に前後 7 回、武将鄭和(ていわ)のひきいる大艦隊が東アジア～アフリカに遠征

＝長さ 150m幅 62mの大型商船 60 数隻、乗員２万数千人の史上最大の大航海事業

※朝貢貿易･･みやげ物を献上(朝貢)するとばく大で高価な返礼の品がもらえる

☆(＿＿＿＿※)＝南北朝内乱のころから、北九州などの日本人を中心に朝鮮人･中国人も加わる武装船隊が朝鮮半島や中国沿岸を荒らす⇒明も鎮圧に苦しみ，日本に倭寇の取り締まりを求める。

※前期(14~15 世紀):九州の日本人と朝鮮人ら→朝鮮半島中心,後期(16 世紀):中国人中心→九州や琉球拠点に中国南部へ

☆将軍(　　)、明の求めに応じて倭寇をとりしまり、正式の貿易を開始(　　年)。

＝(＿＿＿＿※)貿易(日明貿易)･･※倭寇と区別するため勘合という合い札(証明書)を使うため。

＊「日本国王」に任命された臣下の義満が明に朝貢する形式→幕府にばく大な利益をもたらす

＊貿易の内容　＊10 年に 1 度、明から(※銅銭,　　,　　,水墨画)など輸入

※特に(　　)は大量に輸入され日本の基本通貨となった(後，国内鋳造も)。

＊日本からは(　　)などを輸出

＊有力守護大名(大内氏など)や寺社も参加して利益を得る。後半は大内氏が独占。

[**朝鮮国の建国**]p85

☆朝鮮：倭寇を撃退した英雄(　　)が高麗を倒し(＿＿＿＿・＿＿＿＿)を建てる。1392 年

⇒将軍義満に倭寇取り締まりを要求し、正式の貿易を開始する。

※応永の外寇(1419 年)･･倭寇撃滅をめざして朝鮮の大軍が対馬を襲ったが,すぐに貿易は再開。

＊朝鮮文字(　　)がつくられ、銅製活字の印刷術や儒教など文化が発展した。

＊日朝貿易･･毎年数多く往来、朝鮮から(米、　　※、高麗人参、工芸品)などを輸入

→後に対馬の宗氏が貿易を独占する(朝鮮との交渉も宗氏が担当)。

※大量に輸入され,寒さを防ぐため歓迎されて，麻に代わって日本人の基本衣料となった。

[**琉球と蝦夷地**]p85

☆琉球の勢力争い･･有力者(按司あじ)たちが城(グスク)を拠点に対立→北山･中山･南山の三国へ

＊１５世紀初め、尚氏が沖縄の３つの国を統一し(＿＿＿＿＿＿)を建てる。首都は(　　)。
⇒明との朝貢貿易，および東アジアと東南アジアを結ぶ(　　)で栄える。
＊中国南部の福建、朝鮮の釜山(ﾌﾟｻﾝ)、シャム、安南、マラッカ、スマトラなどに貿易船。
→生糸、絹織物、陶磁器などを転売。南方の香料、象牙などを輸入。
＊独自の文化が発展　→　16 世紀以降は明やポルトガル商船におされて活動が低下。
☆北海道(　　)‥(＿＿＿＿＿※)が古くから狩猟･漁業や交易を営み,独自の社会と文化築く。
※もともと住んでいた人々。「人」の意味。※本州,中国大陸,樺太や千島列島などと交易する。
※くまおくり(イオマンテ)の文化＝北海道以北の諸民族に共通。活発な文化の交流あり。
→本州の和人が南部に進出し、築いた館(たち)を拠点にアイヌ民族を圧迫(不公平な取引など)。
→アイヌ民族の大規模な蜂起※1457 年コシャマインの戦い→平定した武田(蠣崎)信広が松前氏の祖に。

２２　応仁の乱と戦国大名

[**幕府のおとろえ**]p86　　※一揆‥農民や武士などが共通の目的で集団を結成すること
☆守護大名が幕府の政治を大きく動かす→有力守護大名の勢力争い

☆**応仁の乱**＝(＿＿＿＿年～　　年)※、将軍の跡継ぎ問題から守護大名同士の戦乱へ
＊(　　)氏中心の東軍と(　　)氏中心の西軍→他の守護大名も両派にわかれて争う。
⇒京都を中心に１１年間※も続き、京都の町の大半が焼け野原となる。※最初の年も数える
☆全国的な戦乱へ･･･＊民衆の一揆※、武士の反乱，武士と農民一体の(　　)など
＊京都府南部で守護大名畠山氏を追い出し約 8 年間自治＝(＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿)1485~1493 年
＊浄土真宗(一向宗)の信徒が中心になって起こす＝(＿＿＿＿＿＿＿)
1488 年～1580 年石川県で約 100 年間自治支配をおこなった＝(　　)
☆下の者が上の者を打ち倒す風潮＝(＿＿＿＿＿＿)が全国に広がる。
将軍は京都周辺を支配するだけ。天皇・貴族・寺社の領地も武士にうばわれるなど。

[**戦国大名の登場**]p86,87　　※応仁の乱の頃から約 100 年間の戦乱の時代＝(＿＿＿＿＿＿)
☆全国各地に地域を支配する(＿＿＿＿＿＿)が登場←下剋上で成り上がった者や元守護大名など。
＊戦国大名の政治・・領内の下剋上を終わらせて自分の支配を安定させ領地を拡げる
@領国の武士を組織して強力な軍隊をつくり，近隣の大名と争い，全国統一をめざす者も。。
@要地に巨大な平城を築き、周囲に武士を住まわせ※(＿＿＿＿＿)を作り，商工業者を招いて産業を発展させる。　※武士を農村から切り離し常備軍とする
@その国独自のおきて(※＿＿＿＿＿＿)を定めて武士や領民を統制し、大規模な治水かんがい工事、鉱山開発、交通整備などをおこなって富国強兵をはかる。→農業生産力向上，産業発展。
※朝倉氏の朝倉孝景条云、今川氏の今川仮名目録、武田氏の信玄家法など
＊有力な戦国大名(16 世紀なかば)　(先祖の起こり)　p87 上地図，資料集などから
@南関東　(　北条氏康　)←浪人から　城下町(　　)
@東海　(　　)←守護大名から　城下町(府中、今の静岡市)
@山梨・長野　(　　)←守護大名から　城下町(府中、今の甲府市)
@新潟・北関東　(　　)←守護代から　城下町(春日山)

@福井　　(　　)←守護の家臣から　城下町(　　)
@岐阜　　(　　)←油売商人から　　城下町(稲葉山,今の岐阜市)
@中国地方　(　　)←地方豪族から　　城下町(山口)

歴史ビュー：世界文化遺産・石見銀山 p87

博多の豪商紙屋寿禎が島根県石見で新しい製錬技術(灰吹法)を活用して大規模な銀生産を行う。以後 17 世紀初めにかけては世界産銀の 1/3 をしめたとされる。石州丁銀は近世西日本から東アジアで通貨となる。

２３　産業の発達と広がる自治の動き

[**産業の発達と都市**]p88

☆農業・・＊(　　=米の後の麦づくり)の普及，川から水をひくかんがい農業(水車利用も。
　＊牛馬にすきを引かせて田畑をたがやす。集団での農作業が中心(p88 の絵)。
　＊肥料に堆肥や牛馬の糞尿，人の糞尿を利用 ←糞尿をためるため便所(トイレ)がつくられる
　＊麻,くわ(桑),あい(藍),茶などの(　　)栽培が普及。16 世紀には(　　※)栽培始まる。
　※はじめ中国・朝鮮から輸入された。その糸で織った布は保温や吸湿性にすぐれ洗濯にも強く,染めやすく,すぐに国産されるようになった。船の帆にも利用され輸送力を高めた。かいこのまゆを広げて重ねた旧来のわたを真綿，これを木綿とよんだ。

☆手工業・・京都の西陣織や博多の絹織物、紙・陶磁器・酒・油などの特産物、鍛冶・鋳物業。
☆鉱山業・・金・銀・砂鉄の採掘増大、銀の精錬技術の発展(灰吹法)→生産の増大
☆商業・金融業・運輸業の発達⇔宋銭や(　　特に　　)が貨幣として広くで使われる。
　＊金銭や米を貸す・・**土倉**(どそう),**酒屋**(月利 3~4%の高利貸し)→幕府に税(どそうやく・さかややく)
　＊陸上の運送業者→馬の背を利用してものを運ぶ(　　)、牛車をつかう車借(しゃしゃく)。
　＊海運や河川交通→港町に運送倉庫兼金融業者の(　　)→**問屋**(といや)→問屋(とんや=卸売業者)

[**広がる自治の動き**]p89　※(名主・庄屋は?)「庄屋」は江戸時代の村役人の長。主として関西,関東は名主なぬし。
☆有力農民(「乙名おとな・沙汰人・番頭」などの名主みょうしゅ層※)が指導する村の自治的組織＝(＿＿＿)
　→村(惣村,郷村)の代表を置き、会議(＿＿＿)をひらいてもめ事を解決したり、村の**掟**をきめる。
　　・・かんがい用水路の建設や管理,燃料や飼料をとる共有地の管理,年中行事などを共同で行う
　＊団結して荘園領主や守護大名にも抵抗する民衆の運動＝（＿＿＿＿＿）へ
　　→(　　)を減らすように交渉。(　　・　　)を襲って借金証文をうばうなど。
　　→(＿＿＿＿＿＿＿)1428 年・・各地に広がり幕府に借金帳消しの(　　)を要求
☆商人や手工業者たちの同業者組合＝(＿＿＿)
　　・・公家や寺社に税(座役)を納めて営業の独占や関所の通行税・市場税の免除を認められる
　　→弱い業者の助け合い組織だったが、やがて新しい業者を参加させない独占組織へ
☆都市の成長・・裕福な商工業者＝(＿＿＿＿※)による自治　※「ちょうしゅう」と呼ぶ
　・幕府や大名からの干渉をはねのけ，自治権を買い取って自分たちで町を運営する。自治都市へ。
　・明との貿易で発展した(　　・　　)、応仁の乱から復興した京都(町衆が祇園祭を実施)

歴史ズームイン　戦国大名の富国策ー信玄堤 p90

☆戦国大名の領国経営＝富国強兵・・治山治水による米の増産,金銀採掘などと強力な家臣団編成。
　＊甲州武田氏の課題→釜無川と御勅使川(みだいがわ)との合流点でおこる氾濫を制御し安定した農地に。

→御勅使川を分流させ高岩にぶつけて水勢をそぎ，信玄堤で水をコントロールすることで成功。→甲府盆地西部の新田開発が進む。→甲州流の土木技術として各地に伝えられ，治水で食糧増産をささえた。

歴史ズームイン　幻の町・草戸千軒 p91 広島県福山市の芦田川河口に栄えた中世の町

＊内陸と瀬戸内を結ぶ交通要地で交易の中心地として栄えていた。古銭・石塔・陶磁器などが大量に出土。

２４　室町時代の文化

[北山文化と東山文化]p92,93　　※大名や僧など権威をからかったりして人気。「柿山伏」「附子ぶす」など。

☆政治的・経済的に公家を圧倒した武家が文化の担い手となり，京都の地で武家文化と公家文化とが融合，(　　)や貿易による中国文化の影響も加わって民衆にも広がる。

☆北山文化・・足利義満が京都北山に建てた豪華な別荘=鹿苑寺ろくおんじ(＿＿＿＿)が中心となる。

第１層の阿弥陀堂は寝殿造。第２層の観音堂は和様武家住宅風，第３層は禅宗の仏殿。2,3 層に金箔。

→中国から伝わった禅宗の影響を強く受け、伝統的な公家文化と武家文化の融合の典型。

＊芸能の発展・・民衆の文化が貴族や武士文化に取り入れられて発展

・猿楽や田楽→(　　・　　)父子が（＿＿＿・＿＿＿＿）として大成。

・能のあいまに演じられる軽妙なせりふ劇＝(　　※)→能とともに武家や庶民に浸透。

☆禅宗(特に　　宗)→幕府の保護を受け、京都や鎌倉に大寺院(五山)を建てて大きな影響力。

☆東山文化・・・足利(　　)が京都東山に建てた簡素な別荘=慈照寺(＿＿＿＿)に代表される簡素で気品のある文化。(　　・　　)と呼ばれる落ち着いた雰囲気を持つ。

＊主な内容　@建築・・(＿＿＿＿＿＿※)＝ふすま・障子・畳・床の間などを持つ武士の住宅。

⇒その後の和風住宅の基本となる。※慈照寺東求堂同仁斎(じしょうじとうぐどうどうじんさい)など

@庭園・・禅宗の影響を強く受け、石や砂を巧みに配置して自然を表現する(　　)の技法が広まる。→(　　)の石庭，大徳寺大仙院庭園など。

作庭をになった者は(　　)と呼ばれ差別された人々※

※河原に住み「けがれ」にかかわる人々・・死んだ牛馬の皮の加工・井戸掘り・庭園造り、芸能などをする人々。（河原は非課税地)→一部は権力者に保護され出世した。

@茶の湯、生け花(立花)を楽しむ習慣が広まる。

茶の湯は戦国時代に(　　)が茶道として大成。池坊(いけのぼう)の華道も。

@絵画：(＿＿＿＿)・・墨の濃淡だけで風景などを描く。代表者は(＿＿＿＿)：秋冬山水図など。

(　　)・・水墨画に大和絵の技法をとりいれた。

[今日に伝わる文化]p93

☆民衆が楽しむ文化・・＊素朴で娯楽的な能と狂言，茶の湯，(　　※)など。

※和歌の上の句下の句を別の人が次々とつなげて詠む。公家から地方の武士にまで流行。

＊民衆に人気の絵入りの物語・・「浦島太郎」「　　」などの(　　)。

☆地方への文化の普及・・応仁の乱で都が荒廃し，各地の城下町に都の文化人が下る。

＊大内氏の(　　)・・連歌師宗祇(そうぎ)など多くの文化人が滞在。書籍の出版もされる。

他に北条氏の(　　)，上杉氏の春日山，朝倉市の一乗谷，今川氏の駿府など。

＊上杉氏が保護した儒学と実学の学校(栃木県)・・(　　)※その後小田原の北条氏が保護し，最盛時3000人以上の学生を集める「坂東の大学」(フランシスコ・ザビエルの評価)。

＊各地の寺院・・武家や庶民の子どもの教育が行われる。

☆鎌倉新仏教⇒幕府と結ぶ臨済宗の他，各宗派とも民衆の中に信者をふやし，一揆をくんで守護大名と闘うものもあった。京都町衆の法華一揆，北陸から近畿各地の(　　)など。

☆今日に伝わる衣食住の生活文化が形づくられる。**⇒伝統文化の多くは室町時代にさかんになったもの。**

＊この頃から一日三食，みそ・しょう油が普及。そうめん・うどんなど麺類を食べる習慣も。

＊集団で楽しむ民衆文化が始まる・・正月の羽根つき,節句,村祭り,夏の(　　)など。

＊裕福な家ではゆかに畳をしく(それまでは板敷きがふつう)　＊庶民の衣服・・(　　)から木綿へ

なでしこ日本史　～その２

p96　補足解説(先生方用)

☆静御前・・生没年未詳,平安末期の白拍子で，源義経の愛妾。義経の逃避行に同行するが捕らえられ鎌倉に送られ尋問される。頼朝夫妻の求めで鶴岡八幡宮社前で舞を舞った際も義経への恋慕を歌い不興を買う。子を産むが男子のため由比ヶ浜に沈められ，静は京に返された。伝承を吾妻鏡が収録したか。

☆北条政子・・伊豆の国蛭ケ小島に流されていた源頼朝の監視役であった平氏の北条時政の娘。頼朝と恋仲となり駆け落ちして夫婦となる。頼朝亡き後，弟義時と協力して幕府を運営した。＊承久の乱に際し，多くの御家人たちは，朝廷を絶対として仕えてきた長年の習慣から，朝廷軍と闘う気力を失っていた。その時尼将軍と言われていた政子の語りかけが御家人たちを奮い立たせたことが知られる(「承久記」)。

＊頼朝の死後,北条氏の権力を確立する激動の過程をリードした政治力は極めて大きかった。ただし，実子頼家,実朝の生死に関わる権力闘争の中心にいた彼女の内面はうかがえない。

☆日野富子・・室町幕府8代将軍足利義政の正室。女子をもうけるがなかなか男子ができず，1464年義政が弟義視(よしみ)を後継者に定めた翌年男子義尚(よしひさ)を産む。富子が実子義尚を強引に次の将軍にしようとしたことが応仁の乱の大きな原因となった。富子は終始東軍側にいたが東西両軍の大名への金銭の貸し付け，米の投機などで莫大な財産を築いた。1473年義尚が9代将軍になったが，富子が実質的に幕府を動かした。高利貸しに加え京都七口の関所の収入も独占して公家だけでなく民衆からも恨まれた。やがて母を疎んじた義尚も死んだが，義視と富子の妹の子義材(よしき)を10代将軍とし，後見となった義視や義材と対立しつつ幕政を動かした。義視の死後，自立をはかる義材を細川政元と組んでやめさせ，義政の甥の足利義澄を11代将軍とした。その3年後(1496年)富子は貪欲と陰謀に充ち満ちた57年の生涯を閉じた。※富子は義政の側室4人も追放し，義政は富子と政治を嫌悪して東山の別荘にこもった。「義政が・・趣味に没頭できたのは,抜群の経済感覚をもっていた富子の手腕に負うところが大きいといえるでしょう。」というこの教科書の評価はあまりにも一面的だと思われる。

結婚後の名字

※中世の四姓「源・平・藤原・橘」,武家の名字は領地の地名などから。

☆北条政子や日野富子という表記は後世の『大日本史』などによるもので，日常どう名乗っていたのかは不明。当時の名は「姓＋名字＋名」で，政子の「姓は平」,「名字は北条」,「名は政子」である。「平政子」という署名が残っている。日野富子は「姓は藤原」,「名字は日野」,「名は富子」。⇒「姓」は一生涯変わらないので，同じ「姓」の人同士の結婚以外は「夫婦別姓」が当然。しかし，室町時代以降「夫婦同名字」が多く(別名字もあるが),「夫婦別姓同名字」が普通になったという。

横浜市の副読本問題

横浜市の中学生には以前，『横浜の歴史』(1971 年～)や『わかるヨコハマ』(2009 年～)という副読本が配られていました。ところが，下記のいきさつの結果配られなくなり，今年度は英語やアクティブラーニングで学ぶ全く新しい冊子に変わることになりました。

『わかるヨコハマ』2012 年版の「関東大震災時に軍隊・警察が朝鮮人虐殺委関与した」という既述に対して，2012 年 6 月 25 日の産経新聞が批判し，同年 7 月 19 日，市議会の子ども青少年･教育委員会での保守系市議の質問に対して教育長が 2012 年版の回収と訂正版配付を約束してしまいました。その後回収が行われ，2013 年，2014 年版は軍隊警察の関与や「虐殺」の語句をカットして配付されました。2015 年度は 50 冊学校配布となり，ついには『わかるヨコハマ』は廃止されてしまったわけです。

関東大震災時の朝鮮人虐殺は，歴史学上確立している事実で，国史大事典，日本大百科全書，世界大百科事典，広辞苑，などにも採録されています。大災害のパニックの中，流言にまどわされた民衆などが外国人に対して暴行殺害に及んだという悲痛な体験は横浜の中学生には意識的に伝えて行くべきでしょう。

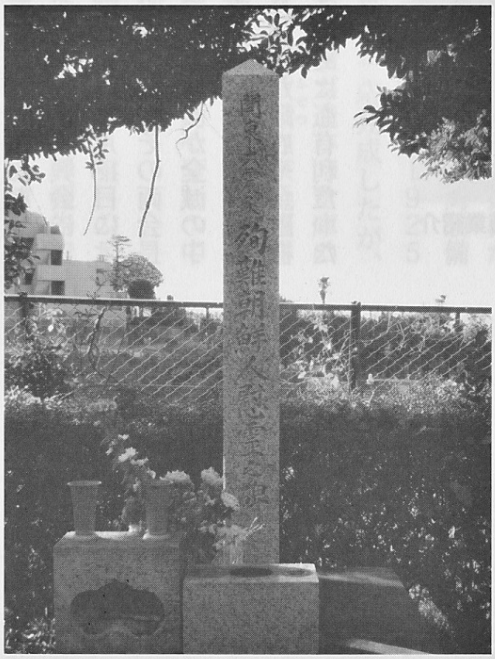
回収された『わかるヨコハマ』2012 年版p205（横浜の歴史の真実は消せない）

災は開港後60年余り営々として築きあげてきた横浜の繁栄を一瞬にして灰にしてしまった。

東京湾岸・相模湾岸一帯はたいへんな被害をうけた。東京や横浜の市街地のほとんどが潰滅状態になり、火災と余震に襲われ続けた市民は不安にかられていた。この混乱のなかで、「朝鮮人が井戸に毒を入れる、暴動を起こす」などというデマ（根拠のない噂）が流された。2日、政府は軍隊の力で治安を維持するため東京に戒厳令を適用した。デマを信じた軍隊や警察、在郷軍人会や青年会を母体として組織された自警団などは朝鮮人に対する迫害と虐殺を行い、また中国人をも殺傷した。横浜でも各地で自警団が組織され、異常な緊張状態のもとで、朝鮮人や中国人が虐殺される事件が起きた。

この事件の背景には１９１９（大正８）年３月１日に起きた、朝鮮民族の日本の植民地支配からの独立運動（三・一独立運動）等、朝鮮民族の抵抗に対する日本人の恐怖心と差別意識があった。「朝鮮人暴動」がデマだとわかると、今度は社会主義者に矛先が向けられ、暴動の扇動や計画を企てたという

が地震の起きた午前 11 時 58 分で止まっている（横浜開港資料館蔵）



132　朝鮮人虐殺に対する謝罪と反省のために日本人が久保山墓地に建てた。裏面には「昭和四十九年九月一日、少年の日に目撃した一市民建之」と記されている。

※回収された 12 年度版 15584 冊は 14 年 3 月に溶解処分された。「配付」されて所有権は家庭に移転していたはずなのに。

13 年度版以降は，軍隊･警察の関与と「虐殺」の語句，日本人の良心を示すこの石碑写真と解説文がカットされた。